

第6期第5回 神戸市立図書館協議会 議事次第

日時：令和2年8月21日（金）午後2時～3時30分

場所：中央図書館2号館3階 閲覧室(2)

1 開会

2 報告

- (1) 令和2年度の事業計画について
- (2) 令和元年度利用実績及び令和2年度見込みについて
- (3) 予約図書自動受取機の稼働について
- (4) 新図書館について
 - ・名谷図書館について
 - ・新西図書館について
 - ・新垂水図書館について
- (5) 感染防止対策、電子図書館の延長について

3 協議

- (1) 令和元年度神戸市立図書館事業評価（案）について
- (2) 図書館協議会第6期協議のまとめ（案）について

4 閉会

中央図書館長挨拶

《配付資料》

- | | |
|------|---------------------------------|
| 資料1 | 神戸市立図書館協議会第6期委員名簿 |
| 資料2 | 図書館協議会関係規程 |
| 資料3 | 令和2年度神戸市立図書館事業計画 |
| 資料4 | 令和元年度利用実績及び令和2年度見込み |
| 資料5 | 予約図書自動受取機の稼働について |
| 資料6 | 名谷図書館について（パース、規則改正、アンケート結果） |
| 資料7 | 新西図書館について（住民説明会資料） |
| 資料8 | 新垂水図書館について（パース、アンケート結果） |
| 資料9 | 感染防止対策、電子図書館延長について |
| 資料10 | 令和元年度神戸市立図書館事業評価（案）【事前送付】 |
| 資料11 | 図書館協議会第6期協議のまとめ（案）【事前送付】 |
| 参考資料 | 「三宮・花時計前駅に予約図書受取機」（新聞記事） |
| 参考資料 | 「OECD 生徒の学習到達度調査 2018 年調査のポイント」 |

神戸市立図書館協議会 第6期委員名簿

委嘱期間：平成30年9月12日～令和2年9月11日

区 分	氏 名	役 職 等
学校教育関係者	山崎 悦子 (やまさき えつこ)	神戸市立小学校教育実践研修図書館グループ代表 (成徳小学校校長)
	河島 正和 (かわしま まさかず)	神戸市立中学校教育実践研修図書館グループ代表 (長坂中学校校長)
社会教育関係者・家庭教育の向上に資する活動を行う者	○一居 明子 (いちい あきこ)	「夕やけ文庫」所属
	森田 祐子 (もりた ゆうこ)	神戸市婦人団体協議会理事
	桜間 裕章 (さくらま ひろあき)	神戸市立博物館調査役
市民代表	安福 絵梨 (やすふく えり)	ネットモニターより選考
	葛西 裕子 (かつさい ゆうこ)	ネットモニターより選考
学識経験者	齊藤 誠一 (さいとう せいいち)	神戸大学大学院 人間発達環境学研究所准教授
	立田 慶裕 (たつた よしひろ)	神戸学院大学人文学部教授
	◎湯浅 俊彦 (ゆあさ としひこ)	追手門学院大学国際教養学部教授

※ ◎は会長 ○は副会長

※ 順不同・敬称略

図書館協議会関係規程

○ 図書館法（昭和 25 年法律第 118 号） 抜粋

（図書館協議会）

第 14 条 公立図書館に図書館協議会を置くことができる。

2 図書館協議会は、図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べる機関とする。

第 15 条 図書館協議会の委員は、当該図書館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第 16 条 図書館協議会の設置、その委員の任命の基準、定数及び任期その他図書館協議会に関し必要な事項については、当該図書館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。この場合において、委員の任命の基準については、文部科学省令で定める基準を参酌するものとする。

○ 図書館法施行規則（昭和 25 年文部省令第 27 号） 抜粋

（図書館協議会の委員の任命の基準を条例で定めるに当たって参酌すべき基準）

第 12 条 法第十六条 の文部科学省令で定める基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命することとする。

○ 神戸市立図書館条例（昭和 25 年 10 月条例第 206 号） 抜粋

最終改正：令和 2 年 4 月 1 日

（図書館協議会）

第 7 条 法第 14 条第 1 項の規定に基づき、図書館に神戸市立図書館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者その他市長が適当であると認める者の中から市長が委嘱する。

3 協議会は、10 人以内の委員で組織する。

4 委員の任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。

5 委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

6 前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

○ 神戸市立図書館条例施行規則（平成 20 年 3 月教育委員会規則第 9 号）抜粋

最終改正：令和 2 年 3 月 31 日規則第 91 号

（協議会の会長及び副会長）

第 23 条 条例第 7 条に規定する神戸市立図書館協議会（以下「協議会」という。）に会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、協議会の委員（以下「委員」という。）の互選により定める。
- 3 会長及び副会長の任期は、委員としての在任期間とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 会長は、協議会の議事その他の会務を総理する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（協議会の会議）

第 24 条 協議会の会議（以下「会議」という。）は、必要に応じて会長が招集する。

- 2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

（関係職員の出席等）

第 25 条 会長は、会議において関係職員の説明又は資料の提出を求めることができる。

- 2 関係職員は、会議に出席して意見を述べるができる。

（施行細目の委任）

第 26 条 この規則の施行に関し必要な事項は、文化スポーツ局長が定める。

※新型コロナウイルス感染症の流行状況により、事業によっては実施できない可能性がある

取組項目	具体的取組	評価項目
1 資料の充実 (1)学習拠点としての資料の充実 (2)地域資料の充実 (3)ユニバーサルデザインに配慮した資料収集	<ul style="list-style-type: none"> ・学び直しに役立つ基本的な資料の買直し(分野ごと) ・電子書籍(資格問題集等)の充実 ・オンラインデータベースの追加(名谷) ・地域図書館の貸出用資料充実 ・認知症関連資料の充実 ・大きな活字の資料の収集継続 ・電子書籍(多言語・読み上げ機能)の提供 	購入内容 購入内容 データベース導入数 購入内容 購入内容 新規購入数 新規購入数
2 学習機会の提供 (1)仕事や地域活動に役立つ情報・機会の提供 (2)生活の質を高める情報・機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・講座、講演会、展示の実施 ・その他イベントの実施 ・講座、講演会、展示の実施 ・その他イベントの実施 	コロナ時代に開催するための工夫 イベント開催数と参加人数 展示の回数 主なものの満足度
3 関係機関との協働 (2からの抜き出し) (1)行政機関との連携 (こども家庭局や公民館、青少年科学館、体育館など、子供対象のものは、6 子供サービスの項へ) (2)学校園との連携 (3)大学との連携 (4)企業との連携 (5)地域団体・NPOとの連携	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉局、健康局 ・各区まちづくり課 ・文化財課、埋蔵文化財センター ・産業振興センター ほか →6子供サービスの項へ ・神戸大学等、地元大学との連携イベントの開催 ・大学が実施する地域貢献事業への支援 ・実習やインターンシップの受け入れ ・ビジネス支援講座の実施(中央、三宮) ・神戸セレクション関連イベントでの地元企業との連携(中央) ・既存の関係団体との連携継続(KFC、神戸アーカイブ写真館等) ・連携先と相互に利用PR ・外国人をサポートする団体との関係構築 	コロナ時代に開催するための工夫 イベント開催数と参加人数 展示の回数 主なものの満足度 コロナ時代に開催するための工夫 イベント開催数と参加人数 展示の回数 主なものの満足度 進捗状況
4 新たなサービスや機器 (1)図書館サービス網の拡充整備 (2)快適便利な高機能機器の導入 (3)ICT技術を活用したサービスと情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・返却ポスト設置(地下鉄花時計前駅、鈴蘭台駅) ・書籍消毒器の設置(名谷) ・公衆無線LANの設置(名谷) ・予約図書自動受取機 ・電子図書館サービスの本格導入 ・自動貸出機の利用促進 	導入実績 導入実績 導入実績 貸出冊数 導入実績 貸出に占める割合
5 利用しにくい市民への環境整備 (1)ユニバーサルデザインに配慮したサービスの提供 (2)ユニバーサルデザインに配慮した利用しやすい環境の整備 (3)図書館を利用していない市民層への働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・点字図書館との連携構築 ・「やさしい利用案内」作成 ・館内サインの見直し検討 ・利用促進をはかる館内外での利用講座、「出前トーク」の実施 ・ママフレや長田区アプリ等メディアへの情報提供 ・転入者へ利用案内配付(検討) 	進捗状況 作成できたかどうか 進捗状況 回数、参加人数 情報提供メディアの数 進捗状況
6 子供サービスの充実と学校図書館支援 (1)生涯にわたって読書を楽しむ習慣を育てるための読書環境の整備 (2)学校園との連携 (3)子供の読書活動推進に関わるボランティア等との連携や支援	<ul style="list-style-type: none"> ・資料収集と計画的な買替え ・乳幼児と保護者向けサービス ・館内外での子供と本をつなぐイベント ・小・中学生への調べ学習支援(調べ学習イベント、パスファインダー作成等) ・YAコーナーの充実を中心とした青少年層への読書推進 ・学校と連携した中高生参加のイベント ・団体貸出による資料提供 ・幼稚園巡回図書の実施 ・学校図書係と連携した研修など、学校司書支援 ・教員・学校司書への新刊紹介等、情報提供 ・ボランティア団体との連携企画 ・ボランティア交流会の開催 ・読み聞かせ等、活動に役立つ講座の開催や新刊本等の情報提供 	コロナ時代に開催するための工夫 新規購入数 イベントの開催数と参加人数 展示の回数 主なものの満足度 団体貸出冊数、回数 巡回貸出冊数 研修回数、参加人数、満足度 回数、紹介点数、参加人数 定例行事での連携数 開催数と参加人数 コロナ時代に開催するための工夫 開催数と参加人数

資料4

令和元年度利用実績及び令和2年度見込み

項目	令和2年度		令和元年度
	(見込み)	元年度実績比	(実績)
1. 図書館資料			
(1)図書受入冊数	186,000冊	213.2%	87,226冊
うち購入図書数	170,000冊	228.1%	74,521冊
(2)蔵書冊数	2,196,000冊	104.2%	2,108,120冊
(3)購入雑誌数	1,025誌	100.1%	1,024誌
(4)視聴覚資料数	37,800点	100.7%	37,543点
2. 資料・情報の提供			
(1)貸出冊数	5,750,000冊	91.4%	6,291,428冊
うち児童書	1,700,000冊	91.8%	1,851,833冊
(2)貸出者数	1,880,000人	91.5%	2,054,360人
うち児童	205,000人	91.7%	223,462人
(3)登録者数	422,000人	101.6%	415,350人
うち児童	45,600人	101.6%	44,861人
(新規登録者数)	35,300人	84.8%	41,630人
(うち児童)	8,000人	87.1%	9,185人
(4)レファレンス受付件数	20,000件	84.7%	23,614件
(5)郵送貸出冊数	520冊	105.3%	494冊
(6)対面朗読利用人数	90人	67.2%	134人
(7)講演会等の開催数	140回	45.3%	309回
(8)ブックリスト等作成数	60件	98.4%	61件
3. ネットワークサービス			
(1)ネットワークサービス申込者数	20,000人	100.3%	19,942人
(2)予約受付件数	1,550,000件	84.7%	1,829,840件
4. 図書館見学・職場体験等			
(1)小学校等からの見学受入人数*	1,000人	14.3%	7,009人
(2)トライやるウィーク受入人数	0人	0.0%	96人
(3)各種団体からの見学受入人数	50人	20.7%	242人

*小学校等からの見学受入人数は幼稚園・児童館・特別支援学校等、町たんけんを含む。

予約図書自動受取機の稼働について

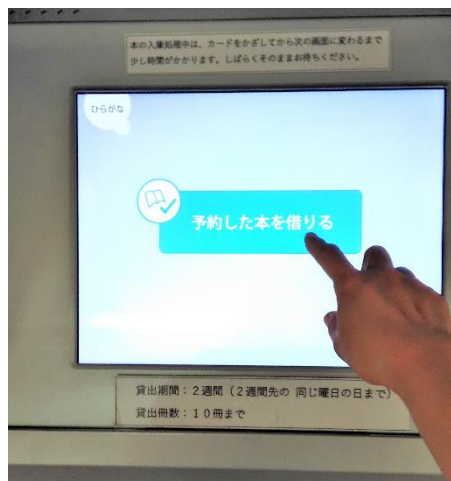
■稼働日：令和2年6月30日（火）

■所在地：神戸市営地下鉄海岸線 三宮・花時計前駅 改札口を出て右側すぐ



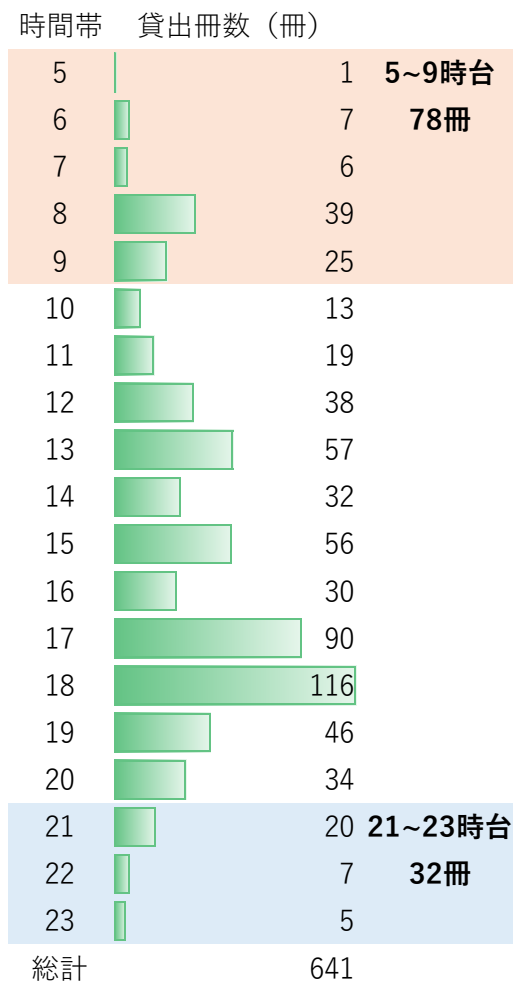
■利用状況

	7月	1日あたり
貸出冊数 (冊)	1,473	47
返却ポスト 返却冊数 (冊)	2,110	68



■利用時間帯の分布

(数値は令和2年7月18日～7月31日の2週間分)



名谷図書館について

【整備概要】

名谷駅前にある大丸須磨店 4 階に新設。

面積約 1,300 m²（4 階部分全体は 2,305 m²）

蔵書規模は 7 万冊程度（うち児童書 2 万冊）

近隣の高校生ら若い世代、子育て世代や勤労世代、高齢者等様々な年代から親しまれる空間づくりを行うとともに、読書や学習に適した静かな空間と、子供たちや若い世代がリラックスして過ごせる空間との両立を目指す。

令和 3 年 3 月下旬開館予定。

【意見募集】

- ・住民アンケート調査の実施（別紙）
- ・神戸市立図書館条例施行規則の一部改正（案）に関する意見募集の実施（別紙）

【イメージパース】



「正面入口付近の外観」



「雑誌コーナー」



「エスカレーター横キッズスペース」

名谷図書館アンケート調査結果（概要）

1. 実施期間 令和2年2月21日（金）～3月31日（火）

2. 配布・回収場所

神戸市立須磨図書館、予約図書受取コーナー2か所（須磨区内2か所）
 須磨区役所、ユースプラザ KOBE・WEST、大丸須磨店、
 神戸市立図書館ホームページ（Web 回答）

3. 回答数 1,403 件（うち、Web 回答 253 件）

4. 回答者の基本属性

（1）性別

	①男性	②女性	無回答	計（人）
人数	394	995	14	1,403
割合	28.1%	70.9%	1.0%	100.0%

（2）年齢

	①10代	②20代	③30代	④40代	⑤50代	⑥60代	⑦70代以上	無回答	計（人）
人数	284	70	164	167	135	245	319	19	1,403
割合	20.2%	5.0%	11.7%	11.9%	9.6%	17.5%	22.7%	1.4%	100.0%

（3）職業

	①会社員・公務員	②自営業	③アルバイト・パート	④家事専業	⑤学生	⑥無職（含年金生活者）	⑦その他	無回答	計（人）
人数	328	35	185	173	300	330	25	27	1,403
割合	23.4%	2.5%	13.2%	12.3%	21.4%	23.5%	1.8%	1.9%	100.0%

（4）住所

	①須磨区	②須磨区以外の神戸市内	③神戸市外	無回答	計（人）
人数	1,017	304	24	58	1,403
割合	72.5%	21.7%	1.7%	4.1%	100.0%

（5）図書館の利用頻度

	①週に3回以上	②週1回	③月2回	④月1回	⑤年に何回か	⑥年に1回以下	無回答	計（人）
人数	78	286	290	140	301	222	86	1,403
割合	5.6%	20.4%	20.7%	10.0%	21.5%	15.8%	6.1%	100.0%

(6) 図書館利用の主な目的

	①予約本の受取	②本の返却	③本や新聞・雑誌を読む	④興味ある本に出会う	⑤調べものや学習	⑥その他	無回答	計(人)
人数	236	68	181	507	284	47	80	1,403
割合	16.8%	4.8%	12.9%	36.1%	20.2%	3.3%	5.7%	100.0%

5. 「新しい図書館」についての質問(年代別集計)

問①「新しい図書館に必要と思われる機能や設備」の年代別回答割合(2つまで選択可)

	静かな環境	気楽な利用環境	誰もが利用しやすい設備	調べもの・学習スペース	イベントや交流スペース	飲食ができるスペース	無回答	統計(%)	総計(人)
10代	24.5%	21.3%	3.2%	18.3%	0.8%	28.7%	3.2%	100.0%	530
20代	33.3%	12.1%	7.6%	22.0%	4.5%	16.7%	3.8%	100.0%	132
30代	20.3%	11.0%	20.6%	17.3%	10.6%	14.6%	5.6%	100.0%	301
40代	31.6%	5.1%	11.5%	23.3%	10.2%	15.0%	3.2%	100.0%	313
50代	31.1%	5.6%	15.9%	19.9%	9.6%	15.9%	2.0%	100.0%	251
60代	27.9%	5.2%	22.3%	17.0%	9.2%	15.3%	3.1%	100.0%	458
70代以上	28.4%	6.1%	27.6%	12.4%	9.6%	12.3%	3.7%	100.0%	595
無回答	16.1%	16.1%	12.9%	6.5%	3.2%	25.8%	19.4%	100.0%	31
統計	27.3%	9.8%	16.7%	17.4%	7.6%	17.5%	3.7%	100.0%	—
総計(人)	714	257	435	455	198	456	96	—	2,611

問②「新しい図書館でどんな本が読みたいか」の年代別回答割合

	様々な興味を満たす一般書	調べものにする専門書	子育てや子供のための図書	仕事に役立つ図書やデータベース	健康に関する図書	中高生向けの図書	大きな活字の図書やCDブック	地元に関する図書	無回答	統計(%)	総計(人)
10代	30.9%	22.2%	2.7%	4.1%	1.6%	28.8%	2.7%	1.9%	5.1%	100.0%	486
20代	34.6%	22.0%	12.6%	13.4%	0.8%	7.1%	0.2%	6.3%	2.4%	100.0%	127
30代	32.7%	12.7%	27.8%	7.5%	3.9%	6.2%	1.2%	3.3%	3.9%	100.0%	306
40代	41.7%	13.2%	11.3%	9.6%	4.6%	7.9%	2.3%	4.3%	3.6%	100.0%	302
50代	44.6%	11.2%	6.4%	9.4%	10.7%	6.0%	2.5%	2.1%	4.3%	100.0%	233
60代	42.0%	12.3%	7.0%	3.0%	11.6%	4.8%	7.4%	7.5%	3.6%	100.0%	440
70代以上	38.9%	10.8%	3.3%	1.9%	13.8%	4.5%	16.3%	8.7%	4.2%	100.0%	573
無回答	24.1%	20.7%	3.4%	3.4%	6.9%	10.3%	0.4%	3.4%	20.7%	100.0%	29
統計	37.6%	14.5%	8.6%	5.4%	7.7%	10.3%	32.9%	5.2%	4.3%	100.0%	—
総計	939	363	214	136	192	256	160	129	107	—	2,496

6. アンケート自由意見欄

自由意見欄には699人の方から、約850件のご意見をいただきました。

	図書館全体の機能や雰囲気	蔵書について	具体的な設備について	図書館の運営や行事等	開館日・時間	北須磨文化センター	不要・疑問	その他	合計
件数	360	206	78	54	30	18	12	97	855
割合	42.2%	24.1%	9.1%	6.3%	3.5%	2.1%	1.4%	11.3%	100.0%

神戸市立図書館条例施行規則の一部改正について（概要）

1. 改正の趣旨

神戸市立図書館条例施行規則に名谷図書館（令和2年度末に設置予定）の休館日及び開館時間を加えるため、同規則の一部を改正します。

名谷図書館の概要は次の通りです。

位 置 神戸市須磨区中落合2丁目2番4号 ※大丸須磨店4階
面 積 約1,300㎡

2. 改正の概要

神戸市立図書館条例施行規則第2条に名谷図書館の休館日を、第3条に開館時間をそれぞれ追加します。

※追加する内容

①名谷図書館の休館日は、次のとおりとする。

- ・第1月曜日（当該日が休日に当たる場合は、その翌日以降の日のうち休日に当たらない最初の日）
- ・第1月曜日の属さない週の火曜日（休日を除く。）
- ・12月29日から翌年1月3日までの日
- ・蔵書の点検に係る期間として、1年につき7日を超えない範囲内で市長が指定する期間内の日
- ・上記のほか、市長が特に必要があると認める日

②名谷図書館の開館時間は、次のとおりとする。

- ・午前10時から午後8時まで。ただし、日曜日及び休日にあつては、午前10時から午後6時まで。

3. 施行予定日

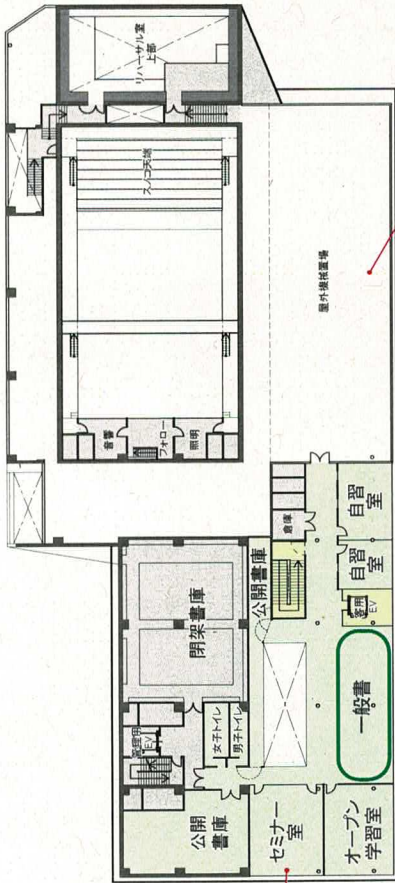
神戸市立図書館条例の一部を改正する条例（令和2年7月条例第20号）附則第1項に規定する施行日から施行します。（名谷図書館は令和2年度末に開館する予定です。）

(仮称) 新西図書館イメージ図



外観は「輝く結晶」と「異国情緒ある格子」をモチーフとし市民に親しまれるランドマーク性の高い景観デザインとする。

- 凡例
- ホール・読書室
 - 図書貯蔵室
 - 共用部
 - 付帯施設
 - 管理施設室、機械室等

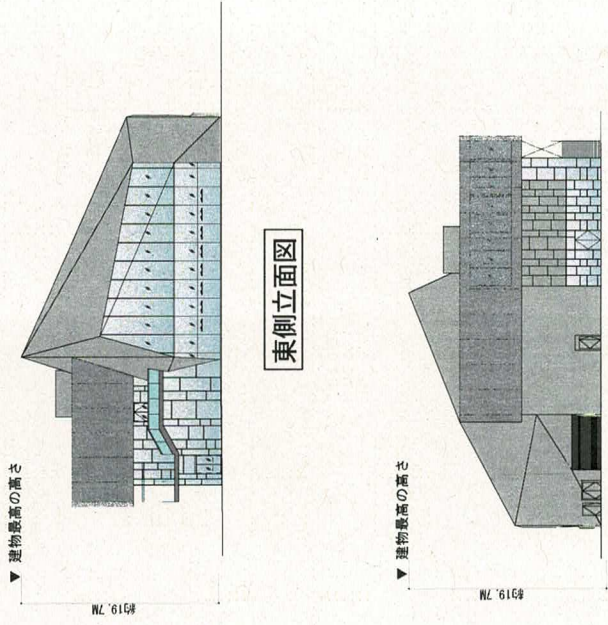


屋外機械置場は南東側に配置し、また屋外機械置場外周には、目隠し壁、防音壁を設置することにより機械騒音に最大限配慮している。

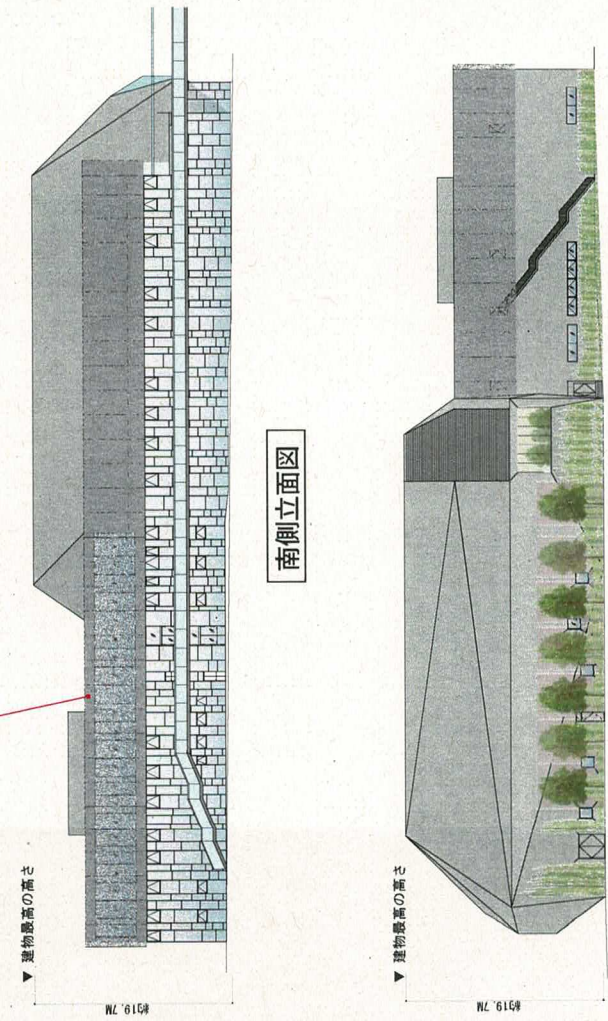


ガラス張りとすることで賑わいを発信。

図書館 3F の外壁には目隠しスクリーンを設け、南側及び西側の共同住宅への視線交錯に配慮している。



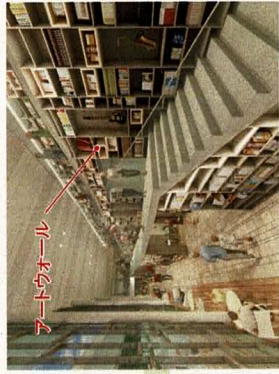
西側立面図



凡例

- ホール講堂
- 図書読書室
- 共用部
- 付帯施設
- 管理読室 機械室等

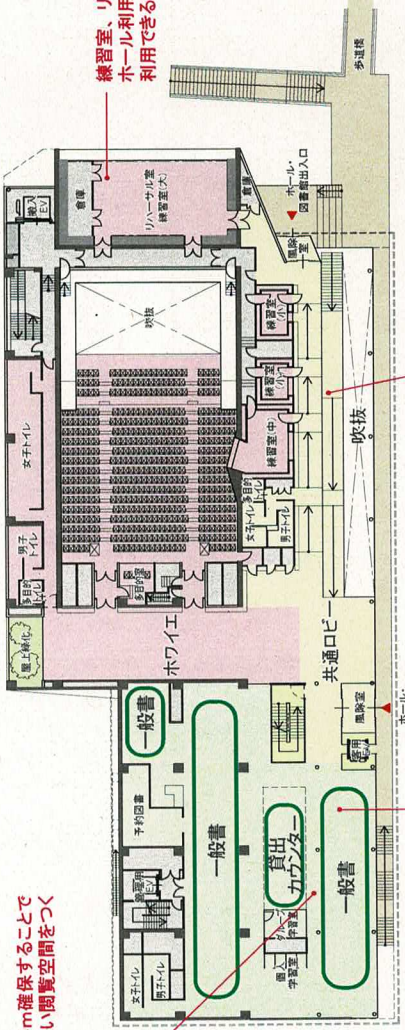
練習室、リハーサル室の転用利用
ホール利用時でも一部楽器や練習室を一般
利用できるフレキシブルな講堂配置とします。



アートホール

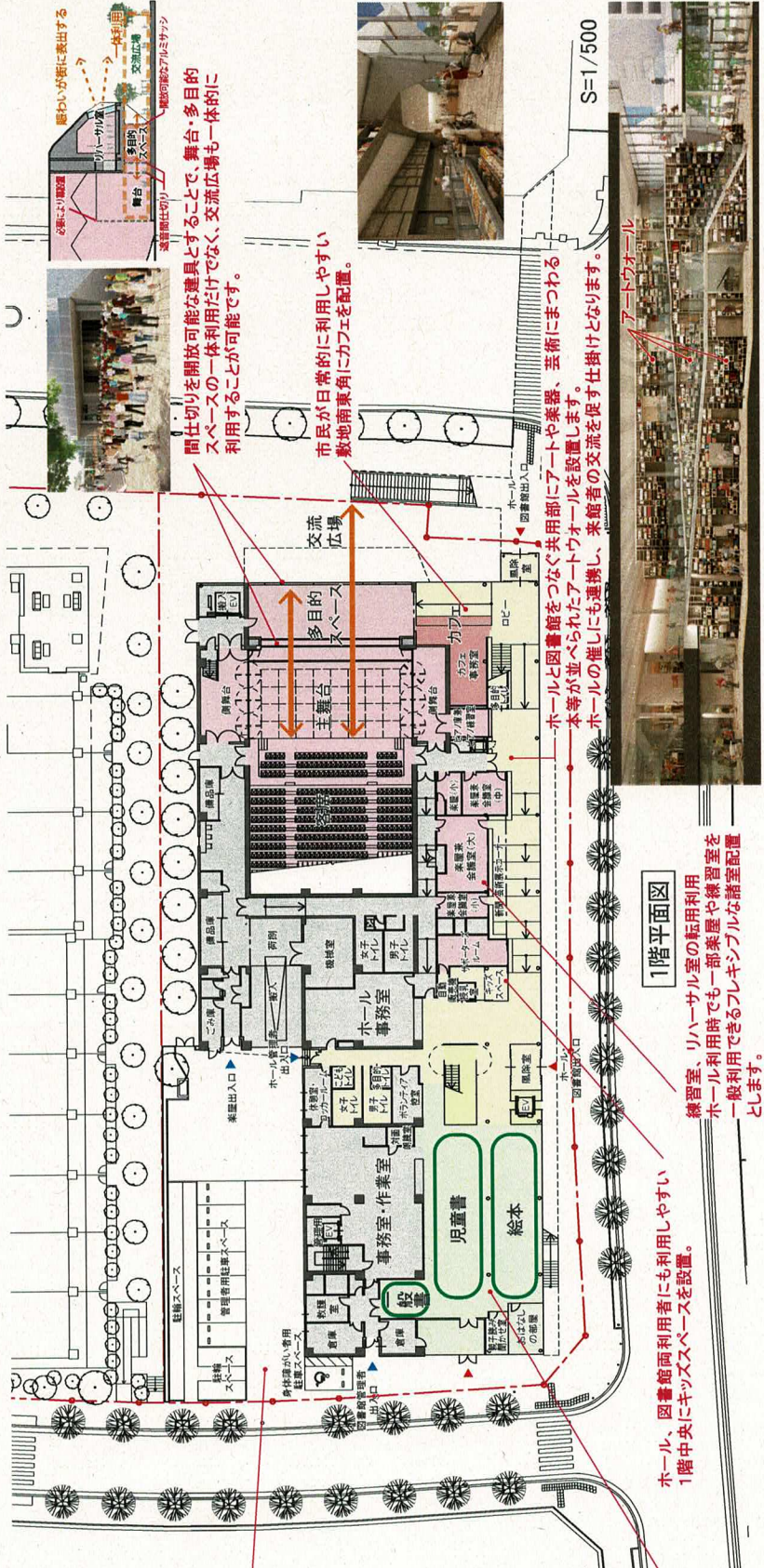
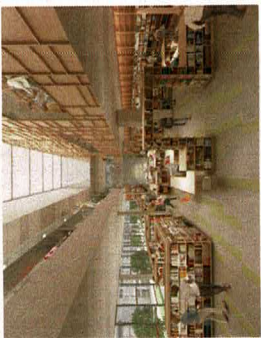
ホールと図書館をつなぐ共用部にアートや楽器、
芸術にまつわる本等が並べられたアートホール
を設置します。ホールの催しにも連携し、来館者
の交流を促す仕掛けとなります。

2階平面図



2階閲覧室は天井高約4m確保することで
明るく快適で居心地の良い閲覧空間をつく
ります。

閲覧室は様々な目的、多世代の利用者が快適に
利用できるよう、書架の空間に変化を与えた多様
な場を設けます。



1階平面図

練習室、リハーサル室の転用利用
ホール利用時でも一部楽器や練習室を
一般利用できるフレキシブルな講堂配置
とします。

ホール、図書館両利用者にも利用しやすい
1階中央にキッズスペースを設置。

図書館は1階部分に児童書を配置し
アクセスの利便性に配慮

間仕切りを開放可能な道具とすることで、舞台・多目的
スペースの一体利用だけでなく、交流広場も一体的に
利用することが可能です。

市民が日常的に利用しやすい
敷地南東角にカフェを配置。



S=1/500

アートホール

ホールと図書館をつなぐ共用部にアートや楽器、芸術にまつわる
本等が並べられたアートホールを設置します。
ホールの催しにも連携し、来館者の交流を促す仕掛けとなります。



車両乗入れは敷地西側に限定し
歩車分離を徹底。



新垂水図書館について

垂水駅前広場に新しい図書館を整備する。面積は約1,500㎡、10万冊以上の図書館となる。

1階は一般車両のロータリー、2階・3階部分を新図書館にする予定。

新図書館では十分なスペースを確保し、市民がゆっくりと本に親しむことができるよう座席数を増やすなど、居心地のよい滞在型の図書館を目指す。

更には、図書館西側の駅前広場と一体感があり、ゆとりある空間づくりをめざす。

【今後の予定】

令和2年度～3年度設計

令和4年度工事

【イメージパース】



垂水図書館アンケート調査結果（概要）

1. 実施期間 令和2年2月21日（金）～3月31日（火）

2. 配布・回収場所

神戸市立垂水図書館、予約図書受取コーナー2か所（垂水区内2か所）
垂水区役所、ユースステーション垂水、
神戸市立図書館ホームページ（Web回答）

3. 回答数 373件（うち、Web回答193件）

4. 回答者の基本属性

（1）性別

	①男性	②女性	無回答	計（人）
人数	112	257	4	373
割合	30.0%	68.9%	1.1%	100.0%

（2）年齢

	①10代	②20代	③30代	④40代	⑤50代	⑥60代	⑦70代以上	無回答	計（人）
人数	52	20	75	79	59	49	35	4	373
割合	13.9%	5.4%	20.1%	21.2%	15.8%	13.1%	9.4%	1.1%	100.0%

（3）職業

	①会社員・公務員	②自営業	③アルバイト・パート	④家事専業	⑤学生	⑥無職（含年金生活）	⑦その他	無回答	計（人）
人数	99	8	53	81	59	55	14	4	373
割合	26.6%	2.1%	14.2%	21.7%	15.8%	14.7%	3.8%	1.1%	100.0%

（4）住所

	①垂水区	②垂水区以外の神戸市	③神戸市外	無回答	計（人）
人数	333	24	9	7	373
割合	89.3%	6.4%	2.4%	1.9%	100.0%

（5）図書館の利用頻度

	①週に3回以上	②週1回	③月2回	④月1回	⑤年に何回か	⑥年に1回以下	無回答	計（人）
人数	36	125	99	39	48	18	8	373
割合	9.7%	33.5%	26.5%	10.5%	12.9%	4.8%	2.1%	100.0%

(6) 図書館利用の主な目的

	①予約本の受取	②本の返却	③本や新聞・雑誌を読む	④興味ある本に出会う	⑤調べものや学習	⑥その他	無回答	計(人)
人数	143	14	46	108	34	19	9	373
割合	38.3%	3.8%	12.3%	29.0%	9.1%	5.1%	2.4%	100.0%

5. 「新しい図書館」についての質問(年代別集計)

問①「新しい図書館に必要と思われる機能や設備」の年代別回答割合(2つまで選択可)

	静かな環境	気楽な利用環境	誰もが利用しやすい設備	調べもの・学習スペース	イベントや交流スペース	飲食ができるスペース	無回答	統計(%)	総計(人)
10代	23.2%	18.9%	7.4%	13.7%	3.2%	28.4%	5.3%	100.0%	95
20代	33.3%	10.3%	15.4%	17.9%	0.0%	20.5%	2.6%	100.0%	39
30代	22.3%	9.5%	24.3%	24.3%	4.7%	14.2%	0.7%	100.0%	148
40代	32.0%	5.9%	12.4%	28.8%	6.5%	13.7%	0.7%	100.0%	153
50代	30.4%	3.6%	10.7%	26.8%	9.8%	16.1%	2.7%	100.0%	112
60代	28.4%	1.1%	18.9%	25.3%	9.5%	13.7%	3.2%	100.0%	95
70代以上	29.2%	9.2%	23.1%	9.2%	10.8%	15.4%	3.1%	100.0%	65
無回答	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	60.0%	100.0%	5
統計	27.8%	7.9%	15.9%	22.5%	6.7%	16.6%	2.7%	100.0%	—
総計	198	56	113	160	48	118	19	—	712

問②「新しい図書館でどんな本が読みたいか」の年代別回答割合

	様々な興味を満たす一般書	調べものを使う専門書	子育てや子供のための図書	仕事に役立つ図書やデータベース	健康に関する図書	中高生向けの図書	大きな活字の図書やCDブック	地元に関する図書	無回答	統計(%)	総計(人)
10代	29.2%	18.0%	6.7%	3.4%	2.2%	25.8%	7.9%	2.2%	4.5%	100.0%	89
20代	39.5%	21.1%	7.9%	7.9%	10.5%	5.3%	2.6%	2.6%	2.6%	100.0%	38
30代	35.8%	13.4%	29.9%	7.5%	3.7%	4.5%	0.7%	0.7%	3.7%	100.0%	134
40代	35.9%	18.6%	19.3%	9.0%	2.8%	6.9%	3.4%	0.7%	3.4%	100.0%	145
50代	42.9%	19.0%	5.7%	9.5%	11.4%	2.9%	3.8%	1.9%	2.9%	100.0%	105
60代	30.7%	15.9%	5.7%	5.7%	14.8%	6.8%	5.7%	8.0%	6.8%	100.0%	88
70代以上	39.7%	6.9%	0.0%	0.0%	5.2%	5.2%	25.9%	10.3%	6.9%	100.0%	58
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	4
統計	35.7%	16.2%	13.3%	6.7%	6.5%	8.0%	5.7%	3.0%	4.8%	100.0%	—
総計	236	107	88	44	43	53	38	20	32	—	661

6. アンケート自由意見欄

自由意見欄には253人の方から、約300件のご意見をいただきました。

	図書館全体の機能や雰囲気	蔵書について	具体的な設備について	図書館の運営や行事等	開館日・時間	不要・疑問	その他	合計
件数	135	47	33	57	6	1	16	295
割合	45.9%	15.7%	11.3%	19.3%	2.0%	0.3%	5.4%	100.0%

I. 市立図書館の感染防止対策について

期間	図書館サービス	国・神戸市の方針等
1/30(木) ～	感染対策拡充 消毒液利用啓発、職員マスク着用	1/29 大阪で陽性者確認 1/30 に WHO 「国際的な緊急事態」を宣言
2/27(木) ～	おはなし会等行事・対面朗読を休止	2/26 に市が対策方針を出すことが決まり急遽決定
3/3 (火) ～ 3/15(日)	閉館・臨時窓口での予約図書貸出	【2/7 指定感染症指定(政令)】 【2/28 市対策方針第1弾】 市有施設は 3/3 (火) ～3/15 (日) 閉館
3/17(火) ～ 4/8 (水)	制限付き開館(座席等は撤去)	【3/11 市対策方針第2弾】 図書館等は 3/17 (火) から開館 【3/23 市対策方針第3弾～第5弾】 図書館等は開館継続
4/9 (木) ～ 5/15(金)	全面閉館	【4/7 政府緊急事態宣言】 【4/8 市対策方針第6弾】 市有施設は 4/9 (木) ～5/6 (水) まで閉館 【4/28 市対策方針第7弾】 市有施設は 5/31 (日) まで閉館延長
5/16(土) ～ 5/28(木)	閉館・臨時窓口での予約図書貸出	【5/15 市対策方針第7弾改訂】 図書館閉館継続、5/16 (土) から予約図書貸出のみ実施
5/29(金) ～ 6/14(日)	制限付き開館(座席等は撤去)	【5/21 政府緊急事態宣言解除】 【5/22 市対策方針第8弾】 図書館は 5/29 (金) から開館、以降段階的に制限緩和
6/16(火) ～	通常開館 制限緩和(座席等の供用を再開、ただし半数程度にまびく)	【5/28 市対策方針第8弾改訂】 図書館は 6/16 (火) からサービス制限緩和
7/1 (水) ～	おはなし会等主催行事・対面朗読を、感染防止対策の整った所から順次再開	7/17 県が「感染警戒期」に入ったと発表

●館内の感染防止策

- ア) 換気を徹底
- イ) カウンター等行列ができる場所の「立ち位置」指定
- ウ) カウンターや自動貸出機等、接触頻度の高い場所の消毒
- エ) 机や座席の一定数削減等
- オ) おはなし会等行事での参加人数の制限、フェイスシールドや透明パネルの使用



●図書館員の感染防止

- ア) マスク等の着用
- イ) カウンターに透明な仕切りを設置
- ウ) 体温測定（毎朝）

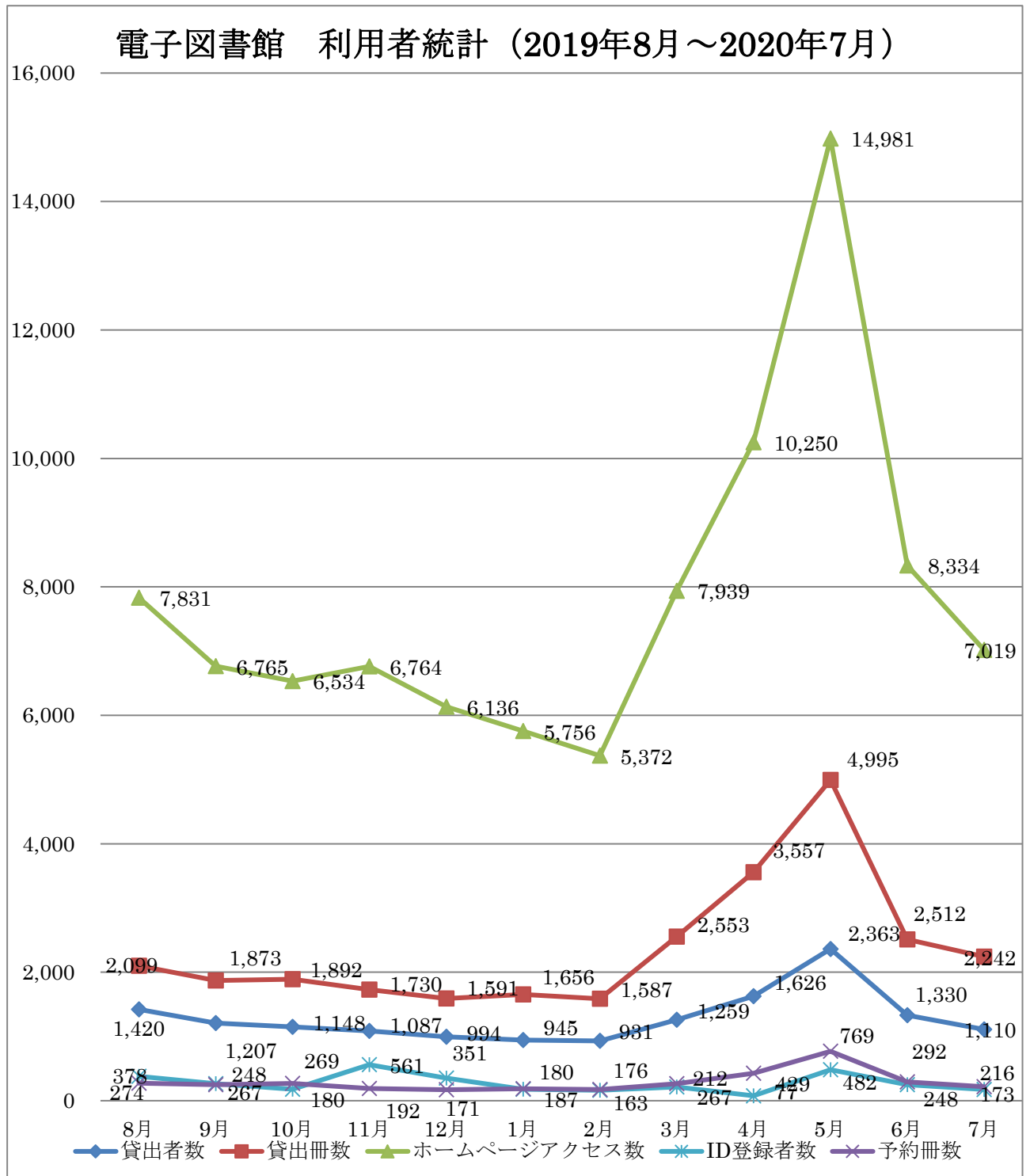


●利用者への協力依頼

- ア) 来館時のマスク着用、読書前後の手洗い。
- イ) 体調の悪い方、マスク未着用の方は来館をお断り。（咳をする方や発熱を疑われる方には図書館からサーモグラフによる検温。）
- ウ) 混雑するなど館内で「3つの密」が発生する場合は、一時的に入館を制限。

II. 電子図書館延長について

- ・新型コロナウイルス対策として、3月3日から15日まで閉館し、制限付きで開館後4月9日から5月15日まで全面閉館した関係で、電子図書館の貸出冊数、貸出者数、ID登録者数は2～3倍増加した。
- ・電子図書館の対応としては、4月30日に試行終了の予定を、12月31日まで期間延長。また、児童向けコンテンツを約300タイトル購入し提供した。(3月5日～)電子図書館ID登録の手続きを簡素化した。(3月12日～)



令和元年度 神戸市立図書館 事業評価（案）

令和2年8月
神戸市立図書館協議会

令和元年度神戸市立図書館事業評価(案)

令和2年8月

評価の基準

- A：計画どおり実施し、一定の成果があった
- B：概ね計画どおりだが、不十分な点や課題が残った
- C：不十分な点や課題が多く、計画どおりにいかなかった

令和元年度の取組項目と具体的取組及び評価項目

図書館事業評価一覧	
令和元年度の目標と行動計画	
1 資料の充実	
評価のポイントと取組事例	<p>(1) 学習拠点としての資料の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び直しに役立つ基本的な資料の分野ごと買直し検討（中央） 今年度はリカレント教育の観点から資料の購入を行った。 特に、英検や漢検、簿記検定等の一般的な資料だけでなく、特殊な知識や技術、資格に関する検定資料等を購入している。 『認知症ケア指導管理士試験』（中央） 『わかりやすいエネルギー管理士熱分野合格テキスト』（中央） 『ウイスキー検定公式テキスト』（西） 『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集』（三宮）など ・参考図書の充実（中央） 「AI 事典」や「労働六法」等新しい分野や注目されている分野の参考資料の充実を図っている。 ・オンラインデータベースの充実（北神） 4/23 開館と同時に「官報」「BOOK PLUS」「ルーラル電子図書館」の3種を提供開始 <p>(2) 地域資料の充実</p> <p>今年度は、特に古本市等を利用し、郷土関係の貴重資料の収集を重点的に行った。 『改正神戸市地図』1924[大正13年] 『有馬名勝圖』1906[明治39年] 等 また、秘書課収集資料の寄贈や他部局からの行政資料の寄贈も多く受け、中央館、地域館とも資料の充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各図書館の地域資料見直し 阪神・淡路大震災から25年目という節目の年を迎え関連資料の出版が相つぎ、新規購入を行うとともに買替・寄贈による収集を行った。 『神戸の慰霊碑を訪ねて：阪神淡路大震災から25年を迎えて』 『心の傷を癒すということ（新增補版）』 その他にも、地域の特色を生かした資料の収集を行った。 『パ酒ポート』（東灘） 『North Kobe Guide』（北神） 『ここらへんを散歩する～長田、新開地の喫茶店とか』（兵庫） ・各区まちづくり課との連絡強化 まちづくり課作成の『North Kobe Guide』には北神図書館について、『ぶらり散策マップ：兵庫区・JR兵庫駅界限』には兵庫図書館について掲載された。 須磨区作成の絵本『すまぼうとにっこりごあいさつ』を含め、区等の作成資料については、作成区に限らず多くの図書館で閲覧ができるよう資料収集に努めた。

	<p>その他、まちづくり課を通じて、区内の大学等のイベントチラシの入手・配布にも努めた。 (東灘)</p> <p>(3) ユニバーサルデザインに配慮した資料収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ LLブック等の積極的収集 (R2.3.31 現在) LLブック：約 127 冊 (うち新規購入数 66 冊 新刊が少ないため) 大活字本：約 30 タイトル 約 180 冊
	<p>【図書館の自己評価】</p> <p>○学び直しに役立つ資料については、新規分野の購入も行い、幅広く収集することができた。また、ユニバーサルデザインに配慮した資料収集についても、新刊資料は少ないが、各館が提供できるよう、積極的に収集した。</p> <p>△地域資料の収集については、積極的に情報の収集を行い、提供できるようしているが、最近紙媒体での提供が減り電子データでの提供が増えてきているため、電子図書館の機能を活用して提供するなど、新たな方法を検討したい。</p> <p>△ユニバーサルデザインに配慮した資料収集についても、紙媒体だけでなく電子媒体を活用した収集を検討したい。</p> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>評 価 案</p> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">B</p> </div> <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <p>(1) 学習拠点としての資料の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新しい職業」という観点をもっと取り入れてはどうか。ドローンを使った仕事、YouTuber、プログラミング教育にかかわる仕事など、これまでの職業分類とは異なる実態が図書館側から見えていないのではないか。 <p>(2) 地域資料の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古書収集よりもデジタルアーカイブを充実させることが必要だろう。 ・収集した地域資料として記載されている事例はかなり少ないように感じるが、実際はもっと多くあるのだろうか。電子データについて電子図書館機能を活用しての提供を検討したいとしているが、ぜひ進めてほしい。 ・神戸市各区の歴史が身近で分かりやすくなるよう、図書館と各区まちづくり課がタイアップして、神戸市の歴史に市民が理解を深めるよう取り組んでほしい。各区には、町の歴史の参考になる資料、データがあると思うので、有効に活用してほしい。 <p>(3) ユニバーサルデザインに配慮した資料収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前協議会の際に初めて知った LLブックなどだが、新刊が少ないなりに収集されていて良かった。 ・今年のコロナ禍でより需要が求められる、ユニバーサルデザインに配慮した資料収集の電子媒体への活用化を早期に実現できるよう、検討してほしい。 <p>(その他全般)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の自己評価において「紙媒体だけでなく電子媒体を活用した収集を検討したい」とあるように、音声読み上げ機能付き電子図書館サービスなど、電子資料や AI など ICT 活用型図書館サービスに移行していくべきであろう。 ・自己評価に書かれているように、電子媒体を活用しての収集、発信に、今後一層取り組んでいただきたい。 ・今後、ますます電子媒体が主流になるだろう。 ・電子媒体の活用ということが挙げられていたが、学校でもギガスクールの構想が進められているが、そうなると、市立図書館でも電子媒体の充実が求められるようになる。さらなる充実を求めたい。 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>評 価 案</p> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">B</p> </div>

2 学習機会の提供（児童向けは、6 子供サービスの項へ）

評価の
ポイント
と取組
事例

(1) 仕事や地域活動に役立つ情報・機会の提供

イベント開催数 17 回・参加人数 142 人 展示の回数 43 回

・講座、講演会、展示、その他イベントの実施

「展示『神戸市大水害 写真とスケッチの記録～貴重資料デジタルアーカイブズ～』」（中央）
7/2～7/15

「展示『認知症について知りたいことが、いっぱいあります。』」（中央）9/18～9/29

「認知症予防展示」（北神・西）9 月

「データベースセミナー」（三宮）4/10 1 人・5/15 1 人・7/17 1 人・11/20 1 人・2/19 1 人

「障害者が地域で暮らすこと@図書館 vol.2」（兵庫）12/6 5 人

自立生活センターリングリング連携

昨年に続き 2 回目を開催。障害を持って生まれた人が地域で普通に暮らすことの意味、意義
を当事者自身が語るトークセッション。今回は聴覚障害にスポットを当て、簡単な手話ゲー
ムも交えながら聴覚障害者の視点、日常に触れた。

「展示『創業する前に知っておきたいこと』」（中央）2/1～2/29 日本政策金融公庫連携

(2) 生活の質を高める情報・機会の提供

イベント開催数 158 回・参加人数 4,162 人 展示の回数 498 回

・講座、講演会、展示、その他イベントの実施

「岡田淳氏講演会 ぼくはこうして物語作家になった」 於：婦人会館 5/11 185 人

「鈴蘭台でのひととき 地域と防災について思う」（北）6/23 イベントでブックリスト配布
6/22～6/30 館内で関連図書展示

「雨庭ワークショップ 第 4 弾「雨と緑とアニメ」」（西）6/29 30 人

アニメ作品のなかの雨のシーンを考察、雨の風景と雨の日の過ごし方について考えるワーク
ショップに、関連資料展示とブックリスト配布で参加

神戸市立工業高等専門学校都市工学科・総合運動公園

「みんなで楽しむ音読の会」（中央）8/1 10 人・12/5 11 人

「管理栄養士さんに教わる発酵食品健康講座」（北・北神）8/25 12 人

【健康について考える機会になり勉強になった。参考図書のリストがとてもよかった。】

「資料展示『月の光に誘（いざな）われ』」（須磨）10/16～11/10

アラビアンナイトをモチーフにした装飾で、ファンタジーの物語や世界観の本を展示。

【本の装丁がきれいな本など見栄えを重視し、普段あまり借りられない本も手に取っていた
だけだ。】

「大人の楽しい朗読」（新長田）6 回 203 人

「大人の一日図書館員」（灘）11/2 4 人

製本や分類の説明・予約図書探し・OPAC 体験・図書のコーティング体験を行った。

【特にコーティング体験が人気で、またやりたい、コーティングだけの講習もあれば参加
したいというお声をいただいた。】

「大人の工作教室『万華鏡』」（東灘）11/3 8 人

「北欧伝統装飾ヒンメリづくりに挑戦!」（新長田）11/4 7 人

【工作の難易度がやや高い分、満足度も高かったようで、こういった機会があればまた参
加したいというお声をいただいた。】

「トールペイントの世界」（灘）11/4 5 人

「大人のためのストーリーテリング」（北神）11/6 46 人

「北神で 川柳よんで 笑おうね」（北神）

11/1～11/30 川柳コンクール作品募集 応募人数 26 人 83 句

12/3～12/20 川柳コンクール人気投票 投票者数 1113 人

1/4～1/31 川柳コンクール結果発表 上位 20 位を館内掲示。冊子を作成し、上位者に贈呈

「今週の背表紙川柳」（兵庫）11/3～

ミニコーナーにてスタッフによる「今週の背表紙川柳」毎週一句を展示（本の背表紙を並べ
て川柳（三行詩）を作る）。興味を持った方は、気軽に参加できるように案内した。

	<p>「KOBE 1970-80s 作品展」 (三宮) 11/25～12/8 もふもふ堂 (神戸市在住イラスト画家) 1970～80 年代の三宮・元町の風景のイラストを勤労会館 1 階ギャラリーに展示 「だれでもできる! ストレッチ講座」 (新長田) 12/11 8 人 Shimizu 整骨院 院長と図書館スタッフによるストレッチ講座、ミニブックトーク 「KOBE 須磨きらくえん「青空市」参加 (須磨) 2 回 125 人 KOBE 須磨きらくえん連携 「震災朗読会 令和の風にのせて」 (新長田) 1/19 27 人 「本の案内しよっ ～出張図書案内～」 (北) 2/23 9 人 鈴蘭台ブックストリート参加施設の「街の図書室」にてミニブックトークと利用案内。 【共催者や参加者に「図書紹介」の理解が得られ、継続して企画してほしいと好評だった。】</p>
<p>評 価</p>	<p>【図書館の自己評価】 ○地域の歴史に触れる展示や同じコミュニティの中に暮らす人たちを知るイベント、自身のスキルを高めるセミナーなど各方面から地域活動や仕事に役立つ取組みを行った。 ○身近な食生活や防災を考える催し、本そのものを楽しむ展示、言葉や文章それ自体を味わう講座等、図書館利用を契機として暮らしを見直し楽しむ機会を多様に提供した。 △新型コロナウイルス感染症によるイベントの中止が多く、年度末に予定していた講座等の行事が実施できなかった。</p> <div style="text-align: right; border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center;">評 価 案</p> <p style="font-size: 2em; text-align: center;">A</p> </div> <p>【図書館協議会の評価・意見】 (1) 仕事や地域活動に役立つ情報・機会の提供 ・ビジネス支援関連の情報・機会の提供が「展示『創業する前に知っておきたいこと』」(中央図書館、2/1～2/29)というのは少なすぎるのではないかと。また「データベースセミナー」(三宮)の参加者が毎回 1 人というのは、工夫が足りないのではないかと。データベースを紹介するというイメージではなく、利用者にとって魅力あるテーマを設定して、それを探求する時にデータベースを使えばこれだけの図書館情報資源が発見でき、活用することによって、これだけのメリットがあるという訴求力の高いセミナーとして再編成する必要があると思われる。 ・新型コロナウイルスの影響でイベントの中止も多かったということだが、それでも数多くのイベントを開催していると感じる。このなかで、データベースセミナーの参加者が毎回 1 人なのはなぜなのだろう。内容や開催方法などを再検討する必要があるのでは。 ・中央区や北神、西図書館でも認知症関連の展示をされていて、素晴らしい企画である。40 代でも若年性認知症があり、展示で学習機会を提供されることで図書館へ足を運びたいと思う企画だと思う。兵庫区の取り組みに 12/6『障害者が地域で暮らすこと@図書館 vol. 2』のネーミングにもう少し工夫、配慮があればと思う。神戸市民であれば、誰でも利用できる図書館なので、どなたでも参加できやすいイメージが好ましく、何か分断するようなイメージがある。</p> (2) 生活の質を高める情報・機会の提供 ・多様なイベントが行われ、評価できる。ただ、図書館の自己評価において、「新型コロナウイルス感染症によるイベントの中止が多く、年度末に予定していた講座等の行事が実施できなかった」という振り返りではなく、むしろ「ウイズコロナ」「アフターコロナ」の時代には対面型イベントだけではなく、「Zoom」や「Webex Meeting」などのテレビ会議システムを使ったりリモート開催を今後積極的に行っていく必要があるという「総括」が重要である。 ・生活の質を高める情報・機会の提供が多くなされているので続けていただきたい。 (その他全般) ・様々な興味深い内容の機会が提供されていて、よいと思った。参加された方の声を生かして、新たな企画などにもつなげて欲しい。 ・コロナ感染拡大と自粛で、生活のスタイルが大きく変わったと感じている。過去の生活、シンプルな生活を取り戻せた様にも感じる昨今だが、学習の機会、情報発信にそのあたりを留意したテーマを

取り上げてほしい。

・中央が中心ではあるが、他の区の図書館でもイベント内容にカラーがあつていいと思う。with コロナの今、イベントのあり方も模索してほしい。

評 価 案

A

3 関係機関との協働 (2からの抜き出し)

評価の
ポイント
と取組
事例

(1) 行政機関との連携

イベント開催数 22 回・参加人数 594 人 展示の回数 73 回

・保健福祉局

「食育月間関連展示」(須磨) 6 月

「自殺予防週間関連展示」(全館) 9 月

「展示『認知症について知りたいことが、いっぱいあります。』」(中央) 9 月 (再掲)

「自殺対策強化月間関連展示」(全館) 3 月

・各区まちづくり課

「垂水マスターズゼミ(垂水) 10~12 月 垂水区役所、垂水社会福祉協議会等

「輝け★須磨オヤジ塾『第 5 回図書館の使い方』」(須磨) 12/12 16 人

須磨区役所、須磨区社会福祉協議会等

図書館の便利な使い方について(電子図書館等)と、ワークショップ『一箱図書館長』。

テーマを決めて選書を行い、小さな箱図書館を作る。その後 12/28 まで館内で展示。

・文化財課

→6 子供サービスの項へ

・産業振興センター

「『神戸セレクション』講演会 そして、挑戦は続くー神戸・100 年企業の物語ー」(中央)

12/7 37 人 神戸市産業振興財団

神戸市産業振興財団の事業「神戸セレクション」で認定された商品の企業 2 社(神戸で 100 年以上の歴史を持つ、菓子製造の(株)亀井堂總本店とマッチ製造の(株)ナカムラ)を招いての講演会。

【神戸が好きな方、企業経営に関心のある方が参加された様子だった。「亀井堂さんと神戸関わりを聞くことができ楽しかった」「神戸がマッチの町とは知らなかった」「災害用マッチ、とても良いアイデア】

・文化ホール、KIITO など

「展示『神戸ジャズデイ 2019』」(中央) H31.3/29~4/7 神戸市民文化振興財団

パネル・ポスターの展示、チラシ配布、関連図書展示

「展示『“KOBE”を語る GHQ と神戸のまち』」(中央) 8/14~8/31

デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)で平成 30 年度に開催された展示の一部を巡回展示

「inseparable『変半身(かわりみ)』」プレトークイベント村田沙耶香×松井周(中央)

9/14 67 人 神戸市民文化振興財団

12 月に文化ホールで開催の演劇作品原作者と演出家によるトークイベント

【若い人の参加が多かった。「有名な小説家や演出家の話を聞くことは初めて」「こじんまりしたスペースだったので、距離感が近く良かった】

・日本政策金融公庫

「展示『創業する前に知っておきたいこと』」(中央) 2/1~2/29 (再掲)

・その他

「太田治子氏講演会」(新長田) 10/13 69 人 於: 細田地域福祉センター・ふたば学舎連携

【参加者からお喜びの声や再演のご要望など反応を多くいただいた。】

「U5H(=United 5koku of HYOGO(兵庫五国連邦)プロジェクト)ポスター掲示」(三宮)

2/5~2/18 兵庫県企画県民部広報戦略課

(2) 学校園との連携 →6 子供サービスの項へ

(3) 大学との連携

・神戸大学等、地元大学との連携イベントの開催

「星空の世界を広げよう」(灘) 8/16 23 人・2/16 29 人 神戸大学天文研究会共催イベント

「資料展示『和×夏』」（須磨）8/20～9/19 神戸女子大学ビブリア部との共催
おすすめの本と本の紹介POPの展示

「図書館で落語会」（灘）8/10 14人 神戸大学落語研究会

「人形劇がやってくる」（灘）12/14 23人 神戸大学児童文化研究会

- ・大学が実施する地域貢献事業への支援

「KITサイエンスカフェ」（新長田）6/2 17人、「KITまちコラボ」（新長田）8/20 10人
神戸常磐大学、子育て総合支援施設KITとの共催。図書館は各回テーマに関するブック
トックとブックリスト配布、団体貸出で参加

- ・実習やインターンシップ、見学等の受け入れ 45日間・延べ85人

「実習」（中央）同志社大学 8/20～8/24 3人

「インターンシップ」（中央）大手前大学 8/6～8/10 1人

（中央）神戸女子大学 8/15～8/17 2人

（須磨）神戸女子大学 8/6～8/10 1人・8/14, 8/16～8/18 2人

（垂水）県下の大学（垂水区役所経由） 8/21 4人

(4) 企業との連携 6回・119人

- ・ビジネス支援講座の実施（中央、三宮）

※新型コロナウイルス感染症対策のため中止（中央2/29、三宮3/8）

- ・神戸セレクション関連イベントでの地元企業との連携（中央）（再掲）

「『神戸セレクション』講演会 そして、挑戦は続くー神戸・100年企業のお話ー」

12/7 37人 神戸市産業振興財団

- ・出版社・書店との連携イベント（中央）

講演会「本を届ける vol.2『読まなきゃ！100年先も本はある？』」11/9 50人

昨年度から開始した書店や出版界との連携で行う企画「本を届ける」の第2弾。昨年度の
講師である神戸新聞社松岡健氏と、神戸ゆかりの作家福田和代氏との対談形式での講演会。

【対談形式が聞きやすかった。今後もこのような本に係る企画をと望む声があった。】

- ・その他

「楽天技術研究所サマーインターン2019」（中央）9/10～9/16

楽天でのインターンシップ学生による実証実験。来館者と“本との新しい出会い”を促す
ため、読書の秋におすすめする本の「ジャケットや見どころポイント」を一覧して紹介す
るデジタルサイネージシステムを1階ロビーに設置。

(5) 地域団体・NPOとの連携

イベント開催数56回・参加人数1,105人・展示の回数67回

- ・既存の関係団体との連携継続（KFC、神戸アーカイブ写真館等）

「気軽に落語会」（灘）4回 79人 楽喜（ラッキー）落語研究会連携

「パネル展示 レトロKOBEフォトマップ展」7/2～10/6（東灘・灘・三宮・新長田・須磨・
垂水・西）神戸アーカイブ写真館連携

「ミャンマーの皆さんの夏休み図書館見学会『夏休み読書の会 -pre-』」（新長田）7/27 14人
NPO 神戸定住外国人支援センター（KFC）連携

図書館の利用案内(LL版利用案内・「としょかんのつかいかた」紙芝居を使用)、大型絵
本の読み聞かせ、図書館カード作成、自由閲覧

【ミャンマー語での挨拶に嬉しそうにこたえてくれ、利用案内や絵本をとっても興味を持って
聞いてくれた。子供達からは自主的な発言も多く、和やかな雰囲気ながら活気ある時間と
なった。】

「夏休み読書の会～ミンガラーパー ミャンマー～」（新長田）8/20・8/27 11人

NPO 神戸定住外国人支援センター（KFC）連携

7/27 図書館見学会に参加の子供達に対して、読み聞かせ、工作会、図書館クイズラリーを実施

【子供達は図書館に来るのを本当に楽しみにしていたと、支援員の方から聞いた。】

	<p>「震災 25 年パネル展示『神戸の慰霊碑を訪ねて』」1/10～2/2（東灘・灘・三宮・新長田・須磨・垂水・西）神戸アーカイブ写真館連携</p> <p>「ええとこながた ～多文化をたのしもう～みんなちがってみんないい」（新長田）2/24 45 人 世界の国の絵本の読み聞かせと展示。韓国語・中国語・ベトナム語・英語の絵本も展示。 ふたば国際プラザ連携</p> <p>・連携先と相互に利用 PR</p> <p>「障害者が地域で暮らすこと@図書館 vol.2」（兵庫）12/6 5 人（再掲） 自立生活センターリングリング連携</p> <p>「本の案内しよっ ～出張図書案内～」（北）2/23 9 人（再掲） 大人の居場所研究舎なりわい連携</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">評価</p>	<p>【図書館の自己評価】</p> <p>○各種関係機関と連携した多くの取組みを実施。特に地元企業や作家の方々を招いての講演会では、普段接することのない生の声に触れ、紙媒体から得られるものに奥行きを持たせた情報提供ができた。</p> <p>○他機関との連携展示では、様々な年代・属性の人が訪れる図書館の性質を活かした幅広い情報提供を行うとともに、観覧者の興味・関心を広げ、読書につながるよう努めた。</p> <p>○館ごとに、その地域ならではの連携先と行事を実施することで、各館の色合いが出始めている。</p> <div data-bbox="1203 869 1366 1016" style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>評価案</p> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">A</p> </div> <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <p>(1) 行政機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなイベントが実施されているが、最も重要なのが図書館が神戸市の「情報センター」機能をはたすというミッションを明らかにするイベントであろう。例えば、神戸市のホームページのトップ画面に図書館の検索窓を置き、ここにキーワードを入力すれば、各部局が発行する冊子体や HTML 形式の広報に関して、網羅的に検索できるしくみをトライアルで作成し、行政支援サービスの先駆的活用事例として示すといった連携である。 <p>(3) 大学との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内各大学の大学生に向けて、大学図書館では所蔵していない地域資料の活用方法について積極的に打ち出していく必要がある。大学生の公共図書館利用は「本好き」の学生への貸出サービスにとどまっているのではないか。学術情報を扱う大学図書館とは異なる公共図書館の使い方を大学生に広報していくことは重要である。また、大学図書館のホームページに神戸市立図書館の利用者カードを作成すれば、電子図書館サービスを受けられることを示すリンクを貼ってもらい、積極的に市内の大学に在籍する学生に活用していただく取り組みが必要だと思われる。 <p>(4) 企業との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きい企業だけではなく、中小の神戸を代表する商店等との連携にも取り組んでほしい。 ・例えば、神戸市内にある「神戸市立博物館」「UCC コーヒー博物館」「白鶴酒造資料館」など数多くの博物館、美術館、公文書館、資料館などと、デジタルアーカイブズ構築の観点からもっと連携を模索する必要があると思われる。 <p>(5) 地域団体・NPO との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO 神戸定住外国人支援センター（KFC）との連携は高く評価することができる。このような指定管理者が新しい発想で行う「多文化サービス」などを、より積極的に進めていく必要がある。「図書館の自己評価」にあるように、「館ごとに、その地域ならではの連携先と行事を実施することで、各館の色合いが出始めている」と考える。 ・特に（5）の地域団体・NPO との連携による行事、イベントは、利用者のすそ野を広げ、図書館がよ

り開かれたものとなる助けになると思う。続けていただきたい。

(その他全般)

・大学や地域団体・NPOとの連携についてはさらに積極的に進めてほしい。作家などの講演会は図書館として力を入れてほしい催しだ。「紙媒体から得られるものに奥行きを持たせた情報提供」は、利用者が強く望んでいることだろう。充実させてほしい。

・神戸市の老舗 亀井堂総本店とマッチ製造の(株)ナカムラとの講演会には神戸で起業を考える方も参加されたとのことで、これからも継続してもらいたい企画だが、コロナ禍ではリモート講演会や、YouTubeで開催していくのも検討できたらと思った。学生向けにも実習やインターンシップの経験を通して図書館により親しみ、足を運んで利用してもらい、チラシやポスターではなく、デジタルサイネージシステムを実験的に使っているのも評価できる。

・取組事例が多く継続してほしい。

評 価 案

A

4 新たなサービスや機器

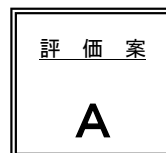
評価のポイントと取組事例

- (1) 図書館サービス網の拡充整備
- ・ 駅周辺の返却ポスト利用 PR 令和2年2月の1日平均利用冊数
灘：95冊、名谷：155冊、垂水：102冊
 - 9月に、JR 灘駅、JR・山陽電鉄垂水駅、市営地下鉄名谷駅に設置の返却ポストに、市所属のクリエイティブデザイナーによる、動植物を配したデザインの装飾ラッピングを施した。
開始後の駅周辺ポストの返却冊数＝123,486冊（平成31年2月から令和2年3月末まで）
 - ・ 垂水区北部の予約図書受取コーナー設置 1日の貸出冊数＝平均100冊以上
ランチ神戸学園都市予約図書受取コーナーは8月16日のオープン以降、順調に利用が伸びている。令和元年度の1日あたりの貸出冊数は、予約図書受取コーナーの中ではベスト2であった。
- (2) 快適便利な高機能機器の導入
- ・ 書籍消毒器の設置（北神）
4/23開館と同時に設置、供用開始。1日平均30件程度の利用がある。
 - ・ 公衆無線LANの設置（北神）
4/23開館と同時に設置、供用開始。アクセス数は1日平均約30件。
- (3) ICT技術を活用したサービスと情報提供
- ・ 電子図書館サービスの検討
当初、令和2年4月末まで2年間の試行実施であったが、新型コロナウイルスの影響により、図書館サービスを制限せざるを得ない状況を受け、サービスの空白期間が生じないように試行実施期間の延長（令和2年12月まで）を決定した。加えて、申し込み方法を簡便化したため、より多くの方にご利用いただいている。また、コンテンツについては、令和2年3月に、休校中の小学生・中学生をターゲットに、新たにおよそ300冊分のコンテンツを追加購入した。現在、サービス内容の検討・提供事業者の選定を行い、令和2年度中の本格実施を目指し作業中。
 - ・ HPやSNS、デジタルサイネージでの情報発信
図書館HPやFacebookで、行事の案内や報告などを引き続き発信中。1月より、中央、兵庫、北神図書館では、モバイルバッテリーシェアリングサービスのデジタルサイネージ機能を活用し、館内行事等のPRを始めた。

評価

【図書館の自己評価】

- 返却ポストについては、前回試行実施時よりも数多くの方に利用いただいております、まずは成果があったといえる。ただ、他の場所にも返却ポストを設置してほしいとの要望も寄せられているが、物流コストの増大もあり今後の課題となっている。
- ランチ神戸学園都市については、多くの方に利用いただいております好評である。今後さらに口コミ等で広まれば利用は伸びると考えられる。
- 電子図書館は、新型コロナウイルスの影響を受け、3月～5月にかけて貸出数が増え、また利用申込も臨時休館後に再開した5月に急増した。



【図書館協議会の評価・意見】

- (1) 図書館サービス網の拡充整備
- ・ これまでの取り組みは高く評価することができる。
 - ・ 駅周辺の返却ポストの拡大をお願いしたい。（神戸・元町・三宮）
 - ・ ニュースでも大々的に取り上げられていたが、駅など便利な場所の返却ポストが素晴らしいと思う。コロナでますます需要が増えると思う。

(2) 快適便利な高機能機器の導入

- ・ 書籍消毒機の設置については、各館に配置すべきであるとする。「ウイズコロナ」「アフターコロナ」の時代に設置している館とそうでない館があるのは問題であろう。
- ・ 北神図書館の消毒器はコロナ禍の今、需要がより多く求められると思うので、まだ設置されていない区でも早急に設置してほしい。公衆無線 LAN は、まだ使ったことはないが、学生～若い世代の利用があると思うのでこちらもお願いしたい。

(3) ICT 技術を活用したサービスと情報提供

- ・ 電子図書館サービスの本格的導入、デジタルサイネージについての記述はあるが、さらに「Pepper」（ペッパー）や「Robohon」（ロボホン）などのロボットを活用した館内案内等の業務、QR コードを活用した在留外国人向け書架案内も検討すべきである。”
- ・ 電子図書館の充実が急務だと思う。
- ・ 電子図書館のさらなる充実を望む。

評 価 案

A

5 利用しにくい市民への環境整備	
評価のポイントと取組事例	<p>(1) ユニバーサルデザインに配慮したサービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対面朗読（中央、東灘、新長田）のPR 利用のべ人数 135 人 対面朗読サービスの案内ポスターを館内に掲示、ホームページの案内内容リニューアル ・ 郵送貸出（中央）のPR 利用のべ人数・のべ冊数 170 人 510 冊 郵送貸出サービスの案内ポスターを館内に掲示、ホームページの案内内容リニューアル ・ 高齢者福祉施設等への出前おはなし会 [前掲2からの抜き出し] 「ふくろうの会×図書館 高齢者向けおはなし会」（新長田）9/22 60 人・1/26 53 人 細田地域福祉センターにて、ボランティアグループ「ふくろうの会」と協力し、高齢者に向けて絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊び歌等を行った。 「本の案内しよっ ～出張図書案内～」（北）2/23 9 人 （再掲） 大人の居場所研究舎なりわい連携 <p>(2) ユニバーサルデザインに配慮した利用しやすい環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用案内改定 子供用多言語版（英語・ハンブルグ・中国語・ポルトガル語）の改訂 ・ HP の障害者サービスページ作成 11/1 掲出 ・ 音声読み上げ機能付き拡大読書機の設置（北神図書館） 4/23 開館と同時に設置、供用開始 <p>(3) 図書館を利用していない市民層への働きかけ [前掲2・後掲6からの抜き出し]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用促進をはかる館内外での利用講座、「出前トーク」の実施 「みんなおいでよ！Baby & Kids フェス in 東灘図書館」（東灘）5/24 109 人・5/25 185 人 「図書館べんりガイド」（須磨）10/20 68 人 「LOVE LOVE LIBRARY～西図書館講座～」（西）10/24 6 人・10/31 9 人・11/7 7 人 「出前トーク：図書館貴重資料に見る“こうべ”」（中央）4/24 97 人・7/4 55 人 「出前トーク：子供の発達と読書」（中央）5/8 5 人 ・ ママフレや長田区アプリ等メディアへの情報提供 「ためまっぷ中央」（三宮）「ためまっぷ長田」（新長田）「ナガイク」（新長田）への情報提供 エコール・リラのLINE を利用した行事等の情報提供（北神）
評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <p>△ 対面朗読サービスのPRを行ったが、2月27日から新型コロナウイルス感染症対策によりサービスを休止。再開は今後の状況による。</p> <p>○ 新規の取り組みとして、細田地域福祉センターへ出向き、絵本の読み聞かせ等を始めた。</p> <p>○ 新規の取り組みとして、外部アプリ等への情報提供を始めた。</p> <p>△ 読書バリアフリー法施行に伴い、さらに一層サービスの充実を図る必要がある。</p> <div style="text-align: right; border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center;">評 価 案</p> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">B</p> </div> <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <p>(1)ユニバーサルデザインに配慮したサービスの提供</p> <p>・すでに提供されている対面朗読、郵送貸出、高齢者福祉施設等への出前おはなし会だけでなく、音声読み上げ機能を有した電子図書館サービスや自動翻訳機能を活用したカウンター対応など行うべきだろう。「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律＝読書バリアフリー法」では次のように定められている。</p> <p>●アクセシブルな電子書籍等（デジタイズ図書・音声読み上げ対応の電子書籍・オーディオブック等）が視覚障害者等の利便性の向上に著しく資することに鑑み、その普及が図られるとともに、</p>

視覚障害者等の需要を踏まえ、引き続き、アクセシブルな書籍（点字図書・拡大図書等）が提供されること

- アクセシブルな書籍・電子書籍等の量的拡充・質の向上が図られること
- 視覚障害者等の障害の種類・程度に応じた配慮がなされること
- ・児童館、身障者施設等での読み聞かせ教室等に取り組んでほしい。
- ・対面朗読サービスは、コロナのため・・・とあるが、それに代わる工夫が必要だと思う。
- ・対面朗読などが、コロナウイルス感染症対策のために出来なくなったとの事だが、高齢者や基礎疾患がある方も含めて弱者に向けてのサービスを今だからこそ充実してほしい。他の市町村では移動図書館などもあり、魅力的だった。

(2)ユニバーサルデザインに配慮した利用しやすい環境の整備

- ・障害者を有する市民だけではなく、性的少数者（セクシャルマイノリティ）であるLGBTに配慮した「だれでもトイレ」の設置が各館に必須である。

(3)図書館を利用していない市民層への働きかけ

- ・出前トークの試みはすばらしいと思う。
- ・小学生から高校生までの児童・生徒を対象としたものと、大学生や社会人を対象とした利用者カード作成を呼びかける機会を増やすことが重要である。とりわけ非来館型サービスとしての電子図書館サービスをいつでもだれでも使えることを知らせる広報を神戸市民全体に対して行うべきだろう。

(その他全般)

- ・新型コロナウイルスの影響で、サービスの充実が難しかった面はあるだろうが、より多くの人たちが利用しやすい環境づくりに積極的に取り組んでほしい。

評価案

B

(1) 生涯にわたって読書を楽しむ習慣を育てるための読書環境の整備

・資料収集と計画的な買替え

児童書新規購入数：中央 3,851 冊（含 BM）・地域図書館 15,473 冊

・乳幼児と保護者向けサービス イベント開催数 285 回・参加人数 8651 人

「だっこでおはなし」（中央・三宮・兵庫・北・新長田・須磨・垂水・西）

児童館、地域子育て応援プラザ等に出向いて、乳幼児と保護者を対象に絵本の読み聞かせや紹介を行うプログラム。

「ほのぼのひろば」（新長田）月 1 回

地域子育て応援プラザ長田と図書館スタッフによる絵本の読み聞かせ、手遊び歌、育児相談

「おはなしゆりかご」（兵庫）10 月・11 月・1 月・2 月 各月 2 回

地域子育て支援センター兵庫と図書館スタッフによる本の紹介や絵本の読み聞かせ、育児相談、ふれあい遊び

「ちいさなお話会『おもちゃ to 絵本 魔法の子育て』」（兵庫）5/6 14 人

共催：MomLabo（講師：竹下あきこ氏）

「みんなおいでよ！Baby & Kids フェス in 東灘図書館」 5/24 109 人・5/25 185 人（再掲）

【男性による読み聞かせが新鮮で良かった。香りのイベントでは母親もリラックスでき嬉しかった。電子図書館早速申し込みます。】

「おはなしプレゼント in きてきてふれあいパーク」（北）10/25 190 人

北区役所 5 階で行われた子育て支援事業イベントに参加。

「パパのおひざでおはなし会～みんなであうたおう～」（新長田）1/12 16 人

「子育て情報紙」（各区子育て応援プラザ発行）におすすめ絵本を紹介（中央・西）

・館内外での子供と本をつなぐイベント

イベント開催数 961 回・参加人数 12,472 人・展示の回数 299 回（定例のものを含む）

<こどもの読書週間行事> ※期間中、ほか多数行事開催

「本のおたのしみ袋」（新長田、西）4～5 月

「母の日工作会」（北）5/12 12 人

<夏休み・読書週間・その他イベント>

◇図書館内

「リアルサイズ古生物図鑑パネル展示」（須磨）8 月

「リアルサイズ古生物 古生代編」（技術評論社）のパネル 11 枚の展示

「神戸キワニス文庫英語のおはなし会」（中央）年 3 回

カネディアン・アカデミー高校生による英語のおはなし会。キワニスクラブとの共催。

「影絵の世界」（灘）3 回 58 人 影絵劇団しろつめくさによる影絵

「アニマシオン」（灘・新長田）6 回 88 人 あにましおん探偵団

「工作ライブ！ラリー」（北神）3 回 62 人 エコール・リラとの共催

「工作会『けろけろキュービックボールをつくろう』」（兵庫）6/13 12 人

絵本作家、桐隆一さんによるワークショップ

【桐さんから好きなキャラクターを作品に描いてもらい、とても喜ばれていた。】

「ゆるっと歴史おはなし会」（兵庫）8/2 13 人

おやこ三国志 PROJECT による三国志に関連する歴史・文化のお話やクイズと人形劇

「兵庫図書館おばけやしき」（兵庫）8/11 120 人

こどもフェスタプロジェクト「こどもフェスタ夜市」開催時に地域住民との協同実施

「公民館サマースクール 図書館バックヤードツアー」（中央）8/21 38 人

「みる・きく・さわる」～”りか本”のよみきかせワークショップ～（三宮）11/10 25 人

バンドー神戸青少年科学館から講師を招いての工作と図書館職員によるりか本（子供向けの理科の本）の読み聞かせ

「クイズラリー 図書館キャラクターを探せ！」（垂水）10/20～11/9 99 人

【図書館キャラクターを知ってもらおう良いきっかけとなった。相談しながら探している子も

おり児童コーナーの配置を知る手助けになった。記念品のしおりも喜んでいただけた。】
「知ろう備えよう防災工作教室」（須磨）1/11 10人

◇図書館外

「絵本アブナイシリーズ原画展」（三宮）8月 絵本作家山本孝氏の原画を勤労会館1階に展示
「あすてっぷKOBE（市民参画推進局）情報ライブラリーでの『おはなし会』」（中央）年3回
「交通局イベント 夏休みおもちゃ箱列車」絵本貸出（中央）8月 100冊
「空気のおもしろ実験ショー&英語タイム&おはなし会」（須磨）8/4 217人（全体参加者数）
学研エデュケーショナル・須磨区民センターとの共催（手遊びと絵本の読み聞かせ）
「第8回しんながたぐにづか ローカル&ワールドフェスティバル（絵本の読み聞かせ・ブック
リスト配布・うろおぼ絵コーナー）」（新長田）11/24 148人
「ネズミcafé in 新開地冬まつり」（兵庫）12/8 50人 於：神戸アートビレッジセンター
ネズミが登場する絵本150冊の展示、紙芝居の読み聞かせ、なりきり工作コーナーがある
フリースペース
「こべっこランド（社会福祉協議会）クリスマスおはなし会『おはなしわーど』」
（中央）12/21
「こべっこランド（社会福祉協議会）イベント『ぬいぐるみの大冒険』」で配布のリーフレッ
トに絵本紹介を掲載（中央）12月

・小・中学生への調べ学習・宿題支援（調べ学習講座・イベント、パスファインダー作成等）
イベント開催数23回・参加人数356人・展示の回数8回

「出前調べ学習講座」（垂水）7月 垂水小、霞ヶ丘小、高丸小
テーマの決め方、図書館での本の探し方・調べ方、事典の使い方、記録方法などについ
て、夏休み前に出前授業を行う。

「夏休み調べ学習『カルタで遊ぼう！地域を知ろう！』」（北）7/27 5人 於：内田家住宅

「夏休み親子新聞教室」（垂水）8/4 12人（須磨）8/8 23人（西）8/10 12人

「自由研究相談室『神戸の遺跡相談室』」（西）8/9 10人 於：神戸市立埋蔵文化財センター

【バックヤード見学が面白かった。色々な保管方法を知ることができ楽しかった。】

「雲のふしぎ研究室」（西）8/16 8人

天気に関する実験（ペットボトル内で作る雲・電球で作る雷）と本を使った調べ学習

「夏休みふしぎ新聞を作ろう」（中央）8/22 4人

「読書感想文講座」（東灘・灘・西）7・8月

【最初は参加者のほとんどが「作文が苦手」と言っていたが、全ての参加者が配布したプリ
ントをきちんと埋められており、読書で感じたことを記す楽しみを体感してもらえた。

（東灘「もっと本が好きになる！読書感想文教室」）8/4 28人】

「親子新聞教室」（東灘）9/23 36人

「調べ学習『ロボットプログラミングに挑戦』」（北神）11/4 23人

講師：地元パソコンスクール「あすか」

【動作をプログラムするのは難しかったが達成感が大きかった。子供達が工夫しながらプロ
グラミングをしている姿が楽しそうだった。】

「ロボットプログラミングワークショップ『ロボット「こくり」をうごかしてみよう』」

（垂水）12/8 10人

「パスファインダー改訂 『職業』『天気』『豆』」（兵庫・北・北神）

「パスファインダー作成 『遊び』『魚』」（兵庫・北・北神）11月・3月

「パスファインダー作成 『港・船』」（東灘・灘・三宮・新長田・須磨・垂水・西）11月

・YAコーナーの充実を中心とした青少年層への読書推進

イベント開催数2回・参加人数32人・展示の回数（掲示等含む）181回

「イチオシ！～中高生読書交流会」（北）8/23 8人

「あなたの『推し本』教えてください～POPコンテスト2019～」（北）11/15～11/30

トライやる生徒作成のPOPを中心におすすめ本のPOPを募集し、来館者に投票してもらう
 POP参加人数：中学生8人 コンテスト投票人数：16人
 「生け花展示」（北神）6月～ ブックラウンジにて、北神区民センター生け花講座生徒（中高生）による生け花展示（生徒おすすめ本のポップも随時掲示）
 「YAおすすめ本紹介」（灘）
 「読みたい本を見つけよう」（北）書評と本を並べて貸出する展示
 「YAかわらばん」（須磨）須磨区民センター内に、YA世代を図書館へといざなうミニ掲示を掲出。
 「うる覚えコンテスト」（須磨）テーマを決めたイラストの募集など、中高生の参加も募っている。

その他 YA 向け参加型展示・図書館だより・掲示
 『ぶらっと一言コーナー』（新長田）、『おたよりコーナー』（西）、『ほんのわ』（北）
 『YA向け！紹介されると読みたくなる本』（北神）、『to youth…よんどく？』（新長田）

・学校と連携した中高生参加のイベント

「中学校図書係生徒のつどい」（中央）7/29 136人
 各校図書委員による情報交流およびビブリオバトル大会、中央図書館見学
 「トライやるウィーク参加中学生によるおすすめPOPと本の展示」（須磨）6/11～7/7
 「橘タウンミーティング」（兵庫）12/11 45人 於：神戸市立神港橘高等学校
 神港橘高校2年生を対象に地元兵庫区・神戸市の多様な分野で活躍する地域の人（個人・団体・企業問わず）＝達人として、その活動内容を直接聞くことで生徒たちの地域への関心を高め、神戸を支える「人財」育成に繋げる取り組み

(2) 学校園との連携

- ・団体貸出による資料提供
 - 「テーマ本集め」（全館） 貸出回数 448回・冊数 13,213冊
 - 「総合学習用図書」の貸出（中央） 貸出回数 199回・冊数 20,502冊
- ・幼稚園巡回図書の実施（中央）
 - 利用数：市立34園、私立15園（各120冊）
 - 過去の巡回図書の譲渡会：7/24・7/26 市立24園参加、541冊譲渡
- ・学校図書係と連携した研修など、学校司書支援
 - 学校司書研修会での講師（中央）：4回（新規採用者1回、経験者3回）参加人数：148人
 - 学校司書ブロック別研修会（於：学校図書館）への参加：市立図書館員10人
- ・教員・学校司書への新刊紹介等、情報提供（中央）
 - 小学校図書館部の教員および学校司書へ児童書を紹介
 - 年2回、紹介点数：260冊、参加人数：117人
- ・小学校出前ブックトーク（東灘・灘・三宮・兵庫・北・北神・新長田・垂水・西）
計18回
- ・高校出前授業「絵本の読み聞かせの講義・実践」
県立夢野台高校（兵庫） 県立友が丘高校（須磨） 神戸第一高等学校（中央）
計6回
- ・小学校からの見学受入 113回 6,669人

(3) 子供の読書活動推進に関わるボランティア等との連携や支援

- ・読み聞かせ等活動に役立つ講座の開催や新刊本等の情報提供
ボランティアスキルアップ講座（中央）4回 141人
 1. 講演会「少年少女の家とオズボーン・コレクションのおはなし」10/9 73人
 2. 「おはなし会のプログラムを作ろう 2回講座」1/24・1/31 計47人
 3. 児童書近刊紹介「2019年のこどもの本」2/13 21人
 4. 読書ボランティア交流会 2/27（コロナにより中止）
- ・ボランティア団体との連携企画
「おはなし会など定例行事でのボランティア導入・連携」

	<p>全館で28団体が、1か月あたり44回活動</p> <p>「夏休み特別おはなし会」(中央)7/23 75人 こうべ子ども文庫連絡会との共催</p> <p>・ボランティア交流会の開催</p> <p>「ボランティア報告・交流会」(西)6/10 15人</p> <p>「朗読ボランティア交流会」(垂水)7/16 7人</p>
<p>評価</p>	<p>【図書館の自己評価】</p> <p>○乳幼児と保護者向けサービスは、「だっこでおはなし」が定着したことに加え、父親参加の催し、地域団体との連携など広がりが生まれている。</p> <p>○調べ学習支援は、夏休みの図書館利用につなげる出前講座、実験と本を組み合わせた調べ学習講座など、図書館ならではの支援を各館で工夫して行った。</p> <p>○YA層への働きかけとして、兵庫図書館で、地元高校生と地域で活躍する大人が交流する取り組みを行った。</p> <p>○子供たちへのブックトークや学校司書・教員への図書紹介のため、日頃から教育課程を理解し子供の本を知ること、適格な支援に繋げている。</p> <p>○巡回用図書として各園に巡回し役割を終えた図書の「譲渡会」を、市立幼稚園へ今回初めて行い、喜んでいただけた。</p> <p>△読み聞かせ等ボランティアむけの講座に、「わらべうた」「エプロンシアター」等希望の多い講座を取り入れることを検討したい。</p> <div data-bbox="1219 860 1382 1010" style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>評価案</p> <p>A</p> </div> <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <p>(1)生涯にわたって読書を楽しむ習慣を育てるための読書環境の整備</p> <p>・「ウイズコロナ」「アフターコロナ」の時代には、紙媒体に偏重することなく、子どもと読書の関係についても電子資料の活用を考慮するバランスのとれた施策を講じるべきである。具体的には「読み聞かせ」の対象者としての「子ども像」から、「絵本を制作する」主体としての「子ども像」への転換が必要である。公共図書館でのデジタル絵本の制作ワークショップを開催し、子どもたちが絵本を創り出す場を設定することから始めてみるべきであろう。</p> <p>(2)学校園との連携</p> <p>・これまでの取り組みはあまりにも「アナログ」的発想で展開されてきた。OECD(経済協力開発機構)による生徒の学習到達度調査(PISA)は、義務教育終了段階の15歳児を対象に、2000年から3年ごとに調査を行っているが、2018年調査(2018年6月～8月実施)では「日本は学校の授業(国語、数学、理科)におけるデジタル機器の利用時間が短く、「利用しない」と答えた生徒の割合が約80%に及び、OECD加盟37か国中で最下位となっている。[文部科学省・国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度調査2018年調査(PISA2018)のポイント」p.10.</p> <p>[https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2018/01_point.pdf]つまり、オンライン授業や電子資料活用型教育実践を念頭におき、公共図書館として学校図書館の支援スタイルを変更していく必要がある。電子図書やデータベースの活用法に関する支援が必要である。</p> <p>・特に学校園との連携がありがたい。ぜひ続けてほしい。</p> <p>・学校園への団体貸出は、学校にとっては、とてもよい取組であるが、その調整を学校園の図書館部の教員がやっているの、その業務を図書館側にしていきたい。</p> <p>(3)子供の読書活動推進に関わるボランティア等との連携や支援</p> <p>・これまでの取り組みは活発に行われており、高く評価することができる。</p>

(その他全般)

- ・YA 向けの企画やイベントが増えており、頑張っておられると思う。学校との連携の「中学校図書係生徒のつどい」を中央図書館で開催されたのは、とてもよかったと思う。
- ・さまざまな形や場所で子ども向けのサービスに取り組んでいることが感じられる。新型コロナウイルスの影響で家にいる時間が増えただけに、本に親しむ機会を増やすことに一層力を入れてほしい。

評 価 案

A

<p>1. 資料の充実</p>	<p>(1)(2)多様で新しい知識情報を提供する試みとして評価できる。 入手しやすいものだけでなく、利用者が少数であっても、地域住民のニーズに応じた資料収集も重要であり、どこも同じものを揃えるのではなく、各館に特色があること、それらがネットワークで検索、利用しやすい状態にあることも評価できる。 (3)現状においても充実を図っているものとして評価できる。 →全体として、紙媒体以外の媒体の収集がさらに試みられることを期待したい一方、活字と紙の感覚を好む利用者が少なくないので、両立をお願いしたい。</p>
<p>2. 学習機会の提供</p>	<p>(1)(2)数値的には十分に努力できている。 だれに何を伝えようとした企画が実際にはどうであったかのデータがあると、さらに説得的であると思われる。 自己評価に記載されている新型コロナウイルス感染予防によるイベント中止は残念であるが、多くで試みられているようなリモート対応への動機づけになっているので、むしろ図書館という物理的な場所へ行かなくても図書館を利用できたり、楽しめたりする新たな機能を開発する契機にされてはどうであろうか。権利関係の問題の残るが、多くのイベントをレコーディングし、新たなライブラリーにできれば資源を有効に活用できるかもしれない。提供する中身の問題と同時に提供の仕方を工夫していくことに気づかせてくれたと思われる。</p>
<p>3. 関係機関との協働</p>	<p>(1)～(4)十分な数値実績として評価できる。 さらに、連携先の維持、拡大を期待したい。さらに、どこでどういったことがなされているかの市民への情報を簡単に入手できるとありがたい。</p>
<p>4. 新たなサービスや機器</p>	<p>(1)～(3)毎年の努力を継続していることを評価したい。 緊急事態宣言時のステイホームを求められたときに、図書館サービスを十分に提供できなかったことが残念であった。休館のため対応しようがなかったと思われるが、今後のウィズコロナを見据えて、職員の方の健康を守りながら、蔵書貸し出しサービスが継続できる工夫に期待したい。返却ポストと同様に、宅配や郵送だけに頼らない神戸市の各種施設を利用した貸し出し拠点整備できるとありがたい(なかなか協力は得にくいと思われるが)。</p>
<p>5. 利用しにくい市民への環境整備</p>	<p>(1)～(3)サービス提供範囲が広く、どこまで提供できるかがむずかしいが、現状でもできる提供をしているものとして評価したい。 さらにサービス範囲をリサーチして、だれが何を必要としているかの把握をお願いしたい。ただ、図書館だけではヒューマンパワーに限界があるので、すでに連携しているとは思われるが、各種ボランティア団体、学生活動団体との連携を進めていただき、図書館が多様な莫大な知の資源を有しており、それを必要とする市民に各種団体の力を借りながら多様な形で提供するというスタンスもさらに模索していただきたい。</p>
<p>6. 子供サービスの充実と学校図書館支援</p>	<p>(1)～(3)十分な活動をしているものとして高く評価したい。 いずれもひとつひとつは意味ある内容と思われるが、全体として何をめざして何をやっているのかの総括を元に、継続する企画と、終了し新たに始める企画の選別が、魅力を維持し続けることになると思われる。サービスを提供された側がそのサービスによってどのようなベネフィットがあったのか、あるいは図書館ファン・応援団になってくれたのか、直後アンケートだけでなくフォローアップデータを収集できると有用な基礎的マーケットデータ、あるいは人間発達と図書との関連を検証できるデータ(例：幼児期に本好きになると、将来も本好きなのか)が得られると思われる。同様に、個人データの関係で取扱がむずかしいかと思われるが、図書館には貸し出し情報と借受人情報の魅力的なデータがあり、単純集計やクロス集計を越えた統計分析を期待したい。</p>

神戸市立図書館協議会 第 6 期 協議のまとめ (案)

テーマについて

第 6 期図書館協議会の協議事項について、事務局からの「多様な人々の円滑な図書館利用」という協議テーマの提案を受け、在留外国人や中途失明等疾病による様々な障害など、図書館利用が困難な方に対するアクセシブルな環境を作っていくという内容で協議を進めることとした。

協議内容

1. どのような利用者がいるか

テーマの範囲は広い。どのような方が図書館の利用に際して不自由を感じるかを具体的に考えてみると、肢体不自由、視覚障害、発達障害、とりわけ学習障害に位置づけられるディスレクシア、日本語を母語としない在留外国人、認知症患者、認知症患者を支える人、高齢者、幼い子どもを持つ保護者などがあげられる。

視覚障害者へのサービスについては、これまでは厚生労働省所管の点字図書館と文部科学省所管の公共図書館に分かれている状態で、いわゆる福祉的、恩恵的な視点があったが、現在は、国や地方公共団体のあらゆる機関による合理的配慮がなされるべきという権利擁護の観点に変化しており、公共図書館として積極的に取り組むべきサービスである。

学校図書館では、ディスレクシアや視覚障害を有する子どもの読書をサポートする「リーディングトラッカー」の導入が検討されている。学校司書に継続的に読み聞かせをしてもらっているうちに、当初は静かに座ることが難しくても、じっと座って読むことができるようになる子どももいる。

公共図書館においても発達障害の子どもに対するサービスに取り組んでほしいが、例えば本を投げたり破ったりする行為に対して、どこまで対応できるか。発想をかなり転換しないと、取り組みが中途半端に終わるおそれがある。子どもの保護者からは、公共図書館では静かにしていないといけないので図書館になかなか行くことができないという話を聞く。こういった声に対して、公共図書館は、読書空間の最適化をめざすために、音のゾーニングの工夫がなされるべきである。また、LLブックの存在を、発達障害の子どもが集まる施設等や保護者にもっとPRするなど、子どもや保護者などに対し、もっとできることがあるのではないか。

日本語を母語としない在留外国人は、日本で生活する上での必要な知識や情報をどこで得ているのだろうか。外国人の子どもに対してはNPOなどの団体が図書を提供している場

所があるが、大人に対してはそのような場所は少ない。公共図書館で多言語の図書の収集や目録データの作成が難しいという事情はあるにせよ、「(仮称) 新三宮図書館の基本計画」に「資料は多くなくてもよい。住んでいる人たちの多言語・多文化を尊重する視点があるとそこに人は来る。図書館に行けば多言語・多文化の出会いがあるとよい」という記述があるように、自分たちが図書館利用サービスの対象者として歓迎されているということが伝われば、より図書館に入りやすくなるのではないか。

認知症患者については、当事者は何も読めないわけではなく、その時々で読めたり、あるいは音声読み上げによって聞くことはできたりと、多様なケースがある。そういった特性を視野に入れつつ読書環境を整えていく必要があるだろう。

高齢者にとって、病気にならないようにすることは大切である。高齢になると目や耳が不自由になる場合も多いため、視覚障害や聴覚障害等の資料を充実させ、高齢者が自分で調べて学習できる場を作るということも必要である。特に健康・医療情報について、図書館が情報サービスの場となることが求められるのではないか。

幼い子どもを持つ女性が、例えば男性が子どもと催しに参加している間に、子どもを気にしながらではなく、自分がゆっくりと本を探せるような取組みがあればよい。

また、幼い子どもを連れた保護者がベビーカーを押して楽に行ける環境整備や、性的マイノリティとされている LGBT の人々がストレスなく利用できるトイレなど、多様な利用者にとってバリアフリーな環境が望まれている。

2. 読書バリアフリー法（視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律）の成立

令和元年6月、いわゆる「読書バリアフリー法」（視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律）が公布、施行され、協議会の大きなテーマ「多様な人々の円滑な図書館利用」と符合する結果となった。

「読書バリアフリー法」の目的は、視覚障害者等の読書環境の整備を総合的かつ計画的に推進し、障害の有無にかかわらず、全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現に寄与することである。基本理念としては、アクセシブルな電子書籍等の普及とアクセシブルな書籍（点字図書・拡大図書等）が提供されること、それらの量的拡充・質の向上が図られること、視覚障害者等の障害の種類・程度に応じた配慮がなされることとなっている。

神戸市立図書館では、対面朗読、大活字本など、従来型の障害者サービスは行われているが、アクセシブルな電子書籍等の充実についてはまだ不十分である。視覚障害、および発達

障害をはらんだ識字障害にしても、また外国人向けのサービスにしても、それぞれ克服すべき問題は異なるように見えるが、例えば音声での読み上げにより視覚障害や発達障害を有する利用者も日本語を母語としない在留外国人も理解できるなど、問題の解消方法が重なってくるはずである。

3. 認知症の方への図書館の取り組みの可能性

「多様な人々の円滑な図書館利用」というテーマは広いため、内容を絞り、今期の図書館協議会では、認知症の方やその家族の方々に図書館は何ができるか、その可能性を探ることとした。

神戸市は「認知症の人にやさしいまちづくり条例」を策定している。認知症診断の助成制度や認知症の方が事故を起こして賠償請求された時の救済制度、GPS 端末に対する助成などの仕組みも作るなど「神戸モデル」という形で先進的な取り組みを行っている。それだけでなく、日常生活のさまざまな場面で認知症の方が暮らしやすい街を市として創っていくという趣旨がある。こういった観点からも図書館としても認知症への取り組みを積極的に進めていくことが必要である。

認知症患者にやさしいということは、身体障害などの方にもやさしい図書館ということにつながるだろう。

図書館で認知症の方に対するサービスを充実させるには、次の二つの視点が重要である。一つには、認知症に関する知識が得られる図書や資料を置くこと。もう一つには、認知症患者が来館された時に利用しやすい図書と適切なサービスを提供できることである。昔のことや思い出などが非常に刺激になると言われている。大きな文字で読みやすいもの、図が多いものもよいのではないか。

まずは、認知症の方に図書館を「行きたい場所、行って楽しい場所」と思ってもらうことが重要である。京都市醍醐図書館では、ここ数年認知症が疑われる利用者が増えたことから、認知症でも安心して過ごせる方法はないかと考え、「認知症カフェ」からヒントを得て若者との交流で脳に刺激が与えられるようなイベントを企画している。そのようなイベントがあれば、図書館に行ってみようと思える。醍醐図書館では図書館員や医療介護従事者などの勉強会もあるようである。認知症の方に楽しいと思ってもらえるような取り組みを、主催する側も勉強してやっていくことが第一歩ではないだろうか。

また、認知症を予防するサービスも考えた方がよいだろう。高齢であっても元気でいる秘訣はおしゃべりをするということも言われている。地域社会において公共図書館がおしゃべりできる場として存在するかしないかが大きいのではないか。

もともと公共図書館には、家でも学校でも職場でもない「サードプレイス」（第三の居場

所)としての場が期待されている。一緒に行動するサークルでも、単に話をする場でもよい。高齢者と子どもが関われるイベントでもよい。そのようなところが図書館の中でできないだろうか。例えば、子ども向けの知育教材などを図書館資料として購入し、図書館ボランティアと一緒に楽しむなど、誰かと共に楽しくできることが認知症予防にもなる。

ただし、図書館として認知症のことに取り組むということになれば、高齢者施設や福祉団体とは異なり、図書や雑誌、あるいはもっと多様な図書館情報資源を介在させる方向性を考える必要がある。例えば、神戸市立図書館が現在行っている「みんなで楽しむ音読の会」では、みんなで声を出して本を読み、少し歌も歌うということだが、このようなコミュニケーションができる企画をさらに広めていけるとよい。

こういった催しは図書館に多目的な用途で使えるスペースがないと実施できない。地域図書館の中には狭いところも多いので、一律にはなく、できるところからできることを初めてはどうだろうか。

4. 図書館が目指すべきことと課題

従来、公共図書館は本の貸出をサービスの中心にしてきたが、認知症の方、あるいはその方たちを支える人たちにとって、図書館が一つの場になるという可能性について考えると、やらなければならないことが見えてくる。認知症の方自身が図書館で楽しめるような様々な取り組みを図書館が提供すること。また、認知症の方を看ている家族の人たちに、認知症についての正しい理解につながる情報を提供していくこと。最後に、認知症とは無縁な人たちが認知症についての理解を深めるための情報発信を行うことである。

しかしながら、これらを実現するには課題も多くある。第一に、こういったサービスを実施するには当然人手と経費が必要である。人や経費という少ない資源を無駄に使わないようリサーチを行い、まずは市内の各種連携先や福祉系の学校や大学からヒューマンパワーなどの面で助力を得ながら対応していくべきであろう。

第二に、認知症への対応は図書館だけで解決できるものではない。例えば、医療現場は診断と投薬が中心で、本人や家族がこの疾病に対してどのように対応していけばよいのか分からないことが多い。そこで図書館との「連携」が必要になってくる。

認知症の方が来館された場合に対応に苦慮する状況も発生するかもしれない。図書館における実践的な研修が必要である。例えば、認知症の人はこうだ、というイメージがあるが、認知症という病気は無く、単に症状に過ぎないという基礎知識を図書館スタッフが知っていかなければならない。大声をあげる人に対して、他の利用者、また実際に図書館現場スタッフがどのように対応するのが重要である。

受け入れる体制づくりはそう簡単にできるものではない。認知症の初期症状、あるいは認知症が進行した段階でも対応が異なるだろう。大事なことは、認知症患者である利用者を受

け入れる場として、まずその温かい眼差しが図書館の中に生まれ、感じられるようになってほしい。

今協議会では、認知症の方またはその周囲にいる方に対するサービスについて議論を重ねてきたが、視覚障害や発達障害を有する利用者、日本語が母語ではない在留外国人など、図書館の利用に障害がある方は多くおられる。このような現実を、「利用者ではなく、むしろ図書館の側に障害がある」というように認識を 180 度転換し、今後も図書や雑誌を読むことを楽しむ「読書センター」としての図書館、またさまざまな課題を解決することができる「情報センター」としての図書館を目指してもらいたい。

【第6期神戸市立図書館協議会の開催記録】

	開催日	報告事項	議事
第1回	平成30年 12月21日	会長等の選出 神戸市立図書館の事業について	今期の図書館協議会のテーマについて
第2回	平成31年 3月15日	平成30年度の図書館事業について 平成30年度市民満足度調査結果	図書館利用のアクセシビリティについて
第3回	令和元年 7月25日	平成26年～30年度の図書館事業について 平成30年度利用実績及び令和元年度利用見込み	平成30年度の事業評価について 読書バリアフリー法について
第4回	令和2年 2月13日	令和元年度の図書館事業について 図書館ご利用の皆様へのアンケート実施について 電子図書館の試行実施報告について	図書館利用のアクセシビリティと読書バリアフリー法について

【委員名簿】（任期：平成30年9月12日～令和2年9月11日）順不同・敬称略 ◎は会長、○は副会長

区分	氏名	役職等
学校教育関係者	山崎 悦子 (やまさき えつこ)	神戸市立小学校教育実践研修図書館グループ代表 (成徳小学校校長)
	河島 正和 (かわしま まさかず)	神戸市立中学校教育実践研修図書館グループ代表 (長坂中学校校長)
社会教育関係者・家庭教育の向上に資する活動を行う者	○一居 明子 (いちい あきこ)	「夕やけ文庫」所属
	森田 祐子 (もりた ゆうこ)	神戸市婦人団体協議会理事
	桜間 裕章 (さくらま ひろあき)	神戸市立博物館調査役
市民代表	安福 絵梨 (やすふく えり)	ネットモニターより選考
	葛西 裕子 (かっさい ゆうこ)	ネットモニターより選考
学識経験者	立田 慶裕 (たつた よしひろ)	神戸学院大学人文学部教授
	斎藤 誠一 (さいとう せいいち)	神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授
	◎湯浅 俊彦 (ゆあさ としひこ)	追手門学院大学国際教養学部教授

省略

(著作権の理由による)

神戸新聞 2020年(令和2年)5月26日付
「神戸市営地下鉄三宮・花時計前駅に予約図書受取機」

学校・学校外でのデジタル機器の利用状況

◆日本は学校の授業(国語、数学、理科)におけるデジタル機器の利用時間が短く、OECD加盟国中最下位。

「利用しない」と答えた生徒の割合は約80%に及び、OECD加盟国中で最も多い。

◆日本は、他のOECD加盟国と同様、学校外で多様な用途にデジタル機器を利用している。

○他国と比較して、ネット上でのチャットやゲーム(1人用ゲーム・多人数オンラインゲーム)を利用する頻度の高い生徒の割合が高く、かつその増加の程度が著しい。

・「毎日」「ほぼ毎日」利用すると回答した生徒の割合の増加の程度(2012年調査との比較)

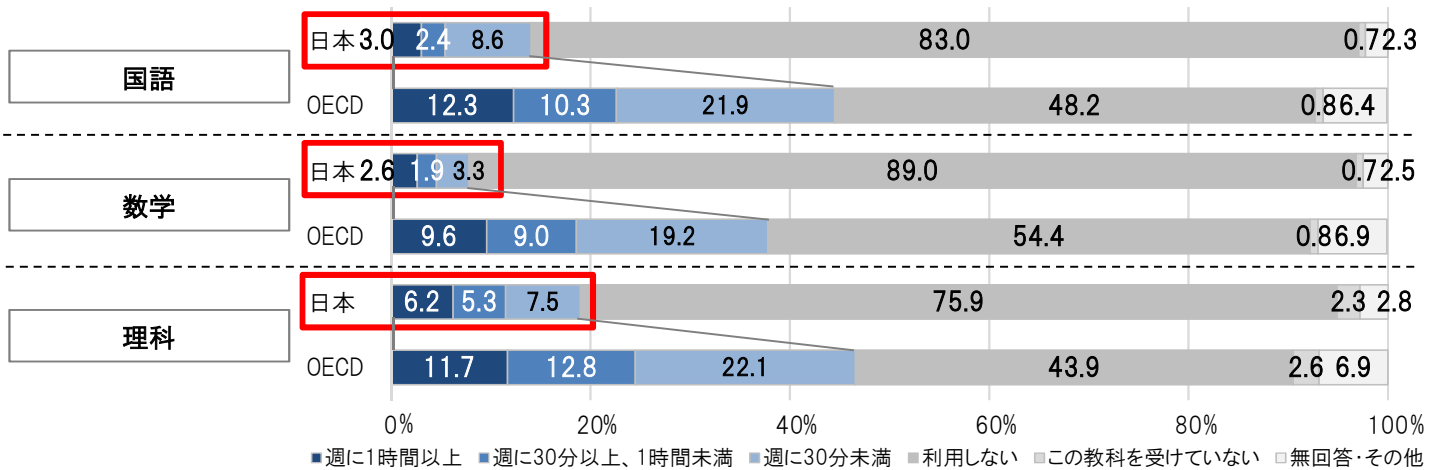
・「ネット上でチャットをする」: 日本60.5ポイント増、OECD平均15.4ポイント増

・「1人用ゲームで遊ぶ」: 日本21.3ポイント増、OECD平均7.1ポイント増

・「多人数オンラインゲームで遊ぶ」: 日本19.4ポイント増、OECD平均7.9ポイント増

○コンピュータを使って宿題をする頻度がOECD加盟国中最下位。

● 1週間のうち、教室の授業でデジタル機器を利用する時間



● 学校外での平日のデジタル機器の利用状況 (青色帯は日本の、★はOECD平均の「毎日」「ほぼ毎日」の合計)

